コンピュータミシン 取扱説明書 CPS05シリーズ

コンピュータミシン

取扱説明書

CPS05シリーズ

必ずお読みください

1 ぬう前の準備

ぬう前に必要な準備を説明します。

2 ぬい方の基本

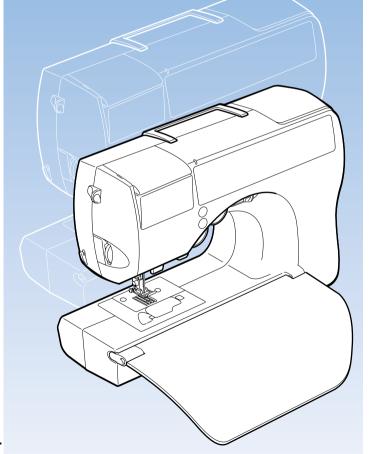
基本のぬい方と上手にぬうコツなどを説明します。

必要に応じてお読みください

3 いろいろなぬい方

いろいろなぬい方とその使い方を説明します。

4 付録

ミシンのお手入れと困ったときの対処方法などを紹介します。

- ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
- 取扱説明書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

brother

付属品を確認してください

箱をあけたら、まず以下の付属品が揃っているか確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

■ **電源コード**

電源ジャックに差し込みます。

■ **糸カセット**

糸こまをセットします。購入時は、本体にセットされています。

● 糸カセットの糸たて棒には、糸こま押え［オレンジ色］が1つセットされています。

■ **補助糸たて棒**

糸カセットにセットできない糸こまを使用するときに使用します。

■ **針交換ツール**

針を交換するときに使用すると便利です。先端は、針穴に通った糸の輪を引き出すときに使用することもできます。

■ **ボビン**

下糸を巻いて使用します。本機専用のものが4個付属しています。そのうちの１個は釜にセットされています。

■ **糸こま押え［白大］［白小］**

下糸たて棒や補助糸たて棒に糸こまをセットするときに使用します。糸こまの大きさによって［白大］［白小］を使い分けます。

■ **糸こま押え［特殊］**

直径 12mm、高さ 75mm の糸こまを下糸たて棒にセットするときに使用します。

● 補助糸たて棒には使用できません。

■ **ドライバー**

ミシン針を交換するときなどに使用します。

■ **はとめ穴パンチ**

はとめ穴をあけるときに使用します。

■ **ミシンブラシ**

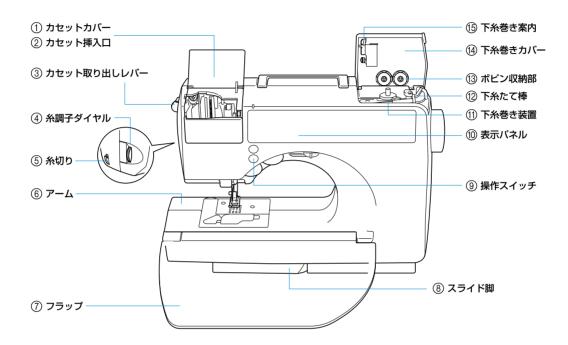
釜などの細かい部分のほこりを取り除くときに使用します。

■ **糸こまネット**

張りが強い糸をセットするときに使用します。

各部の名前とはたらき

ここでは、ミシンの各部の名前とはたらきを説明します。ミシンを使用する前に、よく読んで名前を覚えておきましょう。

前面

① カセットカバー／② カセット挿入口
糸カセットをセットします。

③ カセット取り出しレバー
セットしてある糸カセットを取り出すときに押します。

④ 糸調子ダイヤル
上糸調子を調節します。

⑤ 糸切り
ぬい終わったときに、ここに引っかけて糸を切ります。

⑥ アーム

⑦ フラップ
テーブルの役目をします。ミシンを使用しないときは、上に上げて収納します。そで口などの筒ものをぬうときは取り外します。

⑧ スライド脚
フリーアームにしたときに引き出します。

⑨ 操作スイッチ
ミシンをスタートさせたり、針を上げ下げするときに使用します。（→表紙 D）

⑩ 表示パネル
ぬい方を選択します。（→表紙 E）

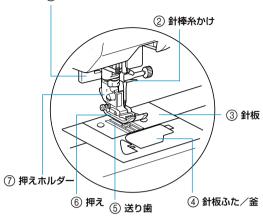
⑪ 下糸巻き装置
下糸をボビンに巻くときに使用します。

⑫ 下糸たて棒
下糸を巻くときに、糸こまをセットします。

⑬ ボビン収納部
専用ボビンを収納できます。

⑭ 下糸巻きカバー
下糸を巻くときにあけます。

⑮ 下糸巻き案内
下糸を巻くときに糸をかけます。

針・押え部分

① ボタン穴かがりレバー
ボタン穴かがりやかんどめをするときに使用します。

② 針棒糸かけ
上糸をかけます。

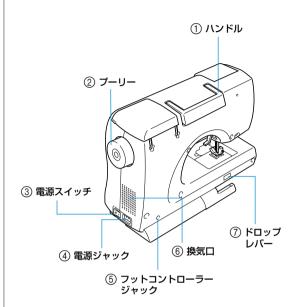
③ 針板
まっすぐにぬうための目盛りが付いています。

④ 針板ふた／釜
ここを開けて、釜にボビンをセットします。

⑤ 送り歯
ぬう方向に布地を送ります。

⑥ 押え
布地を押さえます。５種類の押えが付属しているので、ぬい方に合った押えをセットします。

⑦ 押えホルダー
押えを取り付けます。

右側面・背面

① ハンドル
ミシンを移動するときは、ここを持って持ち上げます。

② プーリー
ぬい目を１針ずつ送ったり、針を上げ下げするときに手前に回します。

③ 電源スイッチ
電源を入れるスイッチです。

④ 電源ジャック
電源コードを差し込みます。

⑤ フットコントローラージャック
フットコントローラーのプラグを差し込みます。

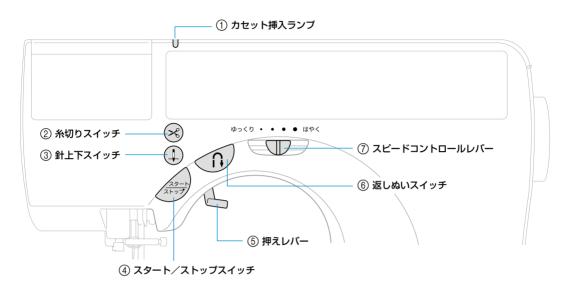
⑥ 換気口
モーターの換気用の穴です。ミシンを設置するときは、ここをふさがないようにしてください。

⑦ ドロップレバー
送り歯を下げるときに使用します。

お知らせ

● 表紙Ｂまたは表紙Ｄ･Ｅを開いた状態でページをめくっていくと、操作しながら各部の名前などが確認できます。

操作スイッチ

ミシンの基本的な操作が手もとでできます。

①カセット挿入ランプ

ミシンの状態によって、ランプが点灯･消灯します。

緑：　糸カセットがセットできる状態のとき
赤：　糸カセットがセットできない状態のとき
消灯：　電源が切れているとき、または糸カセットがセットされているとき

②糸切りスイッチ

ぬい終わったときにこのスイッチを押すと、上糸と下糸が切れます。詳細は「糸を切る」（→P.46）で説明します。

③針上下スイッチ

針の位置を上または下に切り替えます。続けて押すと、１針ぬえます。

④スタート／ストップスイッチ

ミシンをスタートまたは停止します。ぬい始めとスイッチを押している間は、ゆっくりとぬいます。停止すると、針は下がった（布地に刺さった）状態で止まります。詳細は「ミシンをスタートさせる」（→P.42）で説明します。

⑤押えレバー

押えを上げ下げします。

⑥返しぬいスイッチ

スイッチを押している間、返しぬいまたは止めぬいをします。返しぬいの場合はスイッチを押している間、逆方向にぬいます。止めぬいの場合は、同じ場所で３～５針ぬってから止まります。詳細は「返しぬい／止めぬいをする」（→P.44）で説明します。

⑦スピードコントロールレバー

ミシンの進む速度を調節します。

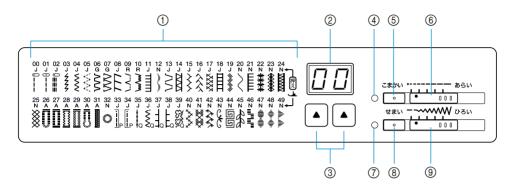
注意

- **糸を切ったあとは、糸切り操作をくり返し行わないでください。針折れや糸がらみ、故障の原因となります。**

お願い

- 布地がない状態やミシンが動いているときは、糸切りスイッチを押さないでください。
- 30番以上の太い糸やナイロン糸など特殊な糸を切るときは、本体側面の糸切りを使用してください。詳細は「糸を切る」（→P.46）で説明します。

表示パネル

前面の表示パネルには、模様が表示されています。

① **模様**

50 の模様があります。00-49 の中から選択します。模様の番号の下に、使用する押えの記号 （A・G・J・N・R）が表示されています。

② **模様表示 /**③ **模様選択キー**

模様選択キーを押して、使用する模様の番号を選択します。50の模様が選択できます。詳細は「模様を選ぶ」（→ P.39）で説明します。

④ **ぬい目の長さ調節表示 /**⑤ **ぬい目の長さマニュアルスイッチ /**⑥ **ぬい目の長さ調節レバー**

ぬい目の長さを調節するときに使用します。ぬい目の長さ調節マニュアルスイッチを押した後、表示が点灯するので、ぬい目の長さ調節レバーをスライドさせて調節します。

⑦ **ジグザグの振り幅調節表示 /**⑧ **ジグザグの振り幅マニュアルスイッチ /**⑨ **ジグザグの振り幅調節レバー**

ジグザグの振り幅を調節するときに使用します。ジグザグの振り幅マニュアルスイッチを押した後、表示が点灯するので、ジグザグの振り幅調節レバーをスライドさせて調節します。

別売オプション

オプション品として、以下の製品を用意しています。

押え

■ ウォーキングフット

ビニールや皮など、すべりにくい布地をぬうときに使用します。(部品コード:X81125-001)

■ キルター

ウォーキングフットや押えホルダーのキルター用の穴に差し込んで使用します。キルティングをするときに、ぬい目を等間隔にそろえてぬうことができます。(部品コード:XC2215-002)

■ ガイド付押え

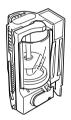
ガイドを布端に合わせて調節し、一定の幅のぬいしろでぬうことができます(部品コード:XC1957-002)

その他

■ フットコントローラー

ミシンを足で操作するときに使用します。(部品コード:XC6654-151)

■ 糸カセット

糸カセットと糸こま押え[オレンジ色]のセットです。よく使う糸用にそろえておくと、上糸を交換するときに便利です。(部品コード:XC4716-021)

お知らせ

- オプション品・部品については、お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にお問い合わせください。

■ 押え（7 種）

ぬい方に合った押えが用意されています。押えにはA・G・I・J・M・N・Rの記号が記されています。

詳細は「押えを交換する」（→ P.33）で説明します。

□ **ボタン穴かがり押え <A>**

□ **たち目かがり押え <G>**

□ **片押え <I>**

□ **ジグザグ押え <J>**

押え固定ピンが付いています。

● 購入時は、ミシン本体の押えホルダーに取り付けられています。

□ **ボタン付け押え＜ M ＞**

□ **模様ぬい押え＜ N ＞**

□ **まつりぬい押え <R>**

■ リッパー

ぬい目をほどいたり、ボタン穴を切り開くときに使用します。

■ ミシン針（HA × 1）

４種類（計６本）の針が付属しています。糸の太さや布地によって使い分けます。

詳細は「針の種類と使い分け」（→ P.29）で説明します。

黄	#11（2本）
赤	#14（2本）
緑	#16（1本）
ニット用金	#11（1本）

■ 取扱説明書

本書です。大切に保管してください。

■ 早見表

下糸・上糸のセットが確認できます。

■ 取扱説明ビデオ

ミシンの基本的な使い方をビデオで紹介しています。

■ 保証書

ミシンを修理するときなどに必要です。大切に保管してください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
お使いになる前に「安全にお使いいただくために」（→ P.6）をよくお読みいただき、この取扱説明書をご覧になり各機能の正しい使い方を十分にご理解の上、末永くご愛用ください。
また取扱説明書は、読み終わったあとも、いつでもご覧になれるところに保管してください。

製品の特長

もくじ

安全にお使いいただくために

取扱説明書および本製品で使われている表示や絵文字は、本製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
その表示や意味は次のとおりです。

警告	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
注意	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

取扱説明書で使用している絵文字の意味は次のとおりです。

 特定しない禁止事項

 分解してはいけません

 水に濡らしてはいけません

 特定しない義務行為

 電源プラグを抜いてください

 特定しない危険通告

 感電の危険があります

 火災の危険があります

 やけどの危険があります

本製品を安全にお使いいただくために、以下のことがらを守ってください。

警告

● 一般家庭用電源AC100Vの電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

● 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。

- ミシンのそばを離れるとき
- ミシンを使用したあと
- 運転中に停電したとき
- 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
- 雷が鳴りはじめたとき

注意

● 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。

● 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

● 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。

● 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。

注意

● 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

● 直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は０～40℃です。ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの皮膜が溶けて火災・感電の原因となります。

● スプレー製品などをご使用の部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。

● ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてケガをする原因となります。

● ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から30cm以上離してお使いください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。

● ミシン本体の上に花びんや水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお近くの販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。

注意

● ミシン本体の重さは約5kgあります。ミシン本体を持ち運びする際は急激、または不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。

● ミシン本体は、必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべって落としたりして、ケガの原因となります。

● ミシン本体には取扱説明書に記載されている正規の部品を使用してください。他の部品を使用するとケガ・故障の原因となります。

● お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電・ケガの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お近くの販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご依頼ください。

● 取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。ケガ・感電の原因となります。

● ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針、プーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。

● 縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。ケガ・針折れの原因となります。

● 針の下などに指を入れないでください。ケガをするおそれがあります。

● 上糸、下糸等に関する操作については、取扱説明書の指示に従って正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみ等が発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

注意

● 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。

● 万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお近くの販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 万一、煙が出ている、変な臭いがする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お近くの販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対に行わないでください。

● ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。

● お子様の玩具として使用しないでください。お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用になるときは、お子様がケガをしないよう十分注意してください。

お願い

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
  This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
  職業用としてご使用になった場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。
- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。

1 ぬう前の準備

ここでは、ぬう前に必要な準備を説明します。

電源を入れましょう

ミシンの電源を入れます。

電源に関する注意

電源について気をつけなければいけないことを説明します。

警告

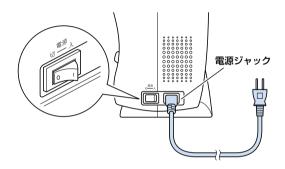
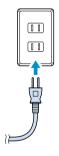
- 一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
  - ミシンのそばを離れるとき
  - ミシンを使用したあと
  - 運転中に停電したとき
  - 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
  - 雷が鳴りはじめたとき

注意

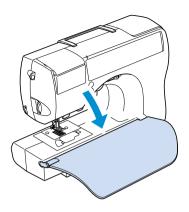
- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「ミシン 119 番」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。
- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

電源を入れる

付属の電源コードを用意します。

1 電源スイッチが「切」になっていることを確認し、本体右側面の電源ジャックに電源コードを差し込みます。

2 電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。

3 本体右側面の電源スイッチの右側（ I 側）を押して「入」にします。

▷ 電源が入り、手もとランプが点灯します。

4 前面のフラップを手前に下げます。

電源を切る

ミシンを使い終わったら、電源を切ります。また、ミシンを移動するときは、必ず電源を切ってから移動してください。

1 ミシンが止まっていることを確認します。

2 本体右側面の電源スイッチの左側（○側）を押して「切」にします。

▷ 電源が切れ、ランプが消えます。

3 電源プラグをコンセントから抜きます。

電源プラグを持って抜いてください。

4 電源ジャックから電源コードを抜きます。

お願い

- 運転中に停電が発生したときは、電源スイッチを切ってから電源プラグを抜いてください。再度ミシンを動かす場合は、手順に従って正しく操作してください。

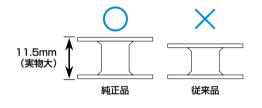
下糸をセットしましょう

下糸用の糸をボビンに巻いてから、ミシンにセットします。

ボビンに関する注意

ボビンについて気をつけなければいけないことを説明します。

注意

● 付属のボビンは本機純正品です。厚みの違う従来品を使用すると、ミシンが正しく動作しません。必ず付属品、または別売りの純正ボビンを使用してください。純正以外のボビンを使用すると、ケガ・故障の原因となります。

下糸を巻く

下糸用の糸をボビンに巻きます。糸こまとボビンを用意します。

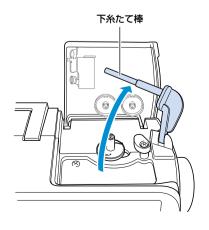
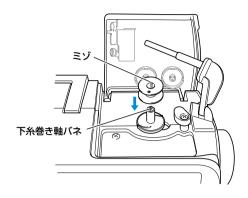
1 電源を入れます。

2 本体右上の下糸巻きカバーを、「カチッ」と音がするまであけます。※

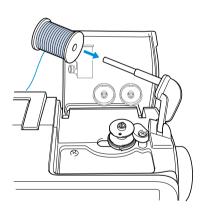
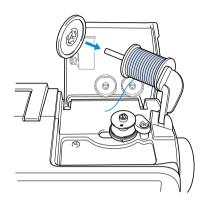
※一番奥の止まるところまで押してください。

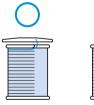
3 下糸たて棒を起こします。

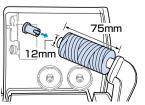
止まるところまで起こします。※

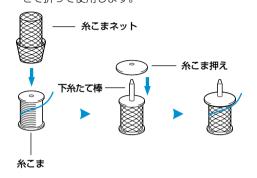
※一番奥の止まるところまで押してください。

4 ボビンのミゾと下糸巻き軸バネの位置を合わせて、ボビンを軸に差し込みます。

5 軸にセットしたボビンを右側に押します。

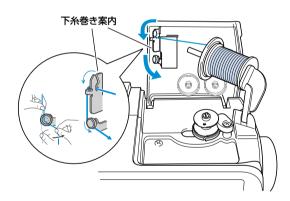
6 下糸用の糸こまを下糸たて棒に差し込みます。

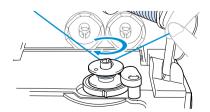
7 糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

糸こま押えは、丸みをおびている面を外側にして、糸こまにくっつくまで差し込みます。

注意

● 糸こま押えは糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまの直径より小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、針折れの原因となります。

お知らせ

● 軸が直径12mm、高さ75mmの糸こまを下糸たて棒にセットする場合は、糸こま押え［特殊］を使用します。

お願い

● ナイロン透明糸やメタリック糸などの張りが強い糸を使用する場合は、付属の糸こまネットを糸こまに付けてから下糸たて棒にセットしてください。ネットが長い場合は、糸こまの大きさに合わせて折って使用します。

8 糸を引き出し、下糸巻き案内に糸をかけます。

下糸巻き案内に糸をかけるときは、**2箇所のミゾの奥まで**確実に糸をかけます。

9 引き出した糸をボビンに巻き付けます。

引き出した糸がたるまないようにして、時計回りに**5～6回**巻き付けます。

10 糸の端をボビン受け座のガイドミゾに引っかけて、右に引いて糸を切ります。

▷ 糸が適切な長さで切れます。

● カッターで糸を切ると、糸がガイドミゾに保持されて、ボビンに下糸を巻くことができます。

注意

● 必ずこの方法で糸を切ってください。ガイドミゾのカッターで糸を切らずに下糸を巻くと糸がうまく巻けません。また、糸量が少なくなったときにボビンに糸がからまり、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

11 スピードコントロールレバーを右（はやく）に動かします。

12 （スタート／ストップスイッチ）を1 回押します。

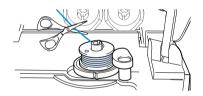
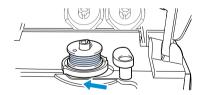
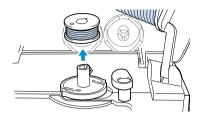
スタート／ストップスイッチ

▷ ボビンが回転し、下糸巻きがスタートします。

▷ 巻き終わると、ボビンの回転がゆっくりになります。

13 ボビンの回転がゆっくりになったら、（スタート／ストップスイッチ）を押します。

▷ ミシンがストップします。

14 巻き終わりの糸をはさみで切ります。

15 下糸巻き軸を左に戻します。

16 ボビンを軸から外します。

17 糸こま押えと糸こまを抜きます。

18 下糸たて棒を倒してから下糸巻きカバーをしめ、スピードコントロールレバーをもとの位置に戻します。

お知らせ

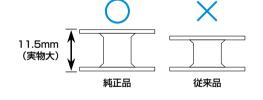
● 下糸を巻いたあとにミシンをスタートさせたりプーリーを回すと、「ガチャ」という音がすることがありますが、故障ではありません。

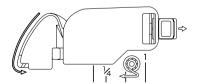
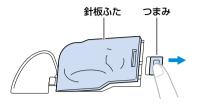
下糸をセットする

下糸を巻いたボビンを釜にセットします。

注 意

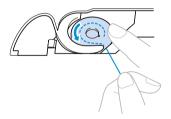
● 下糸は正しく巻かれたものをご使用ください。下糸の巻き方が悪いと、針折れや糸調子不良の原因となります。

● 付属のボビンは本機純正品です。厚みの違う従来品を使用すると、ミシンが正しく動作しません。必ず付属品、または別売りの純正ボビンを使用してください。純正以外のボビンを使用すると、ケガ・故障の原因となります。

お知らせ

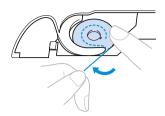
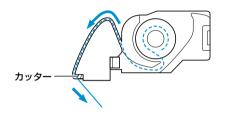
● ボビンをセットする方向が、針板周辺に刻印されています。そちらもあわせて見てください。

1 針板ふたの右側にあるつまみを右に動かします。

▷ 針板ふたが開きます。

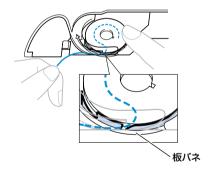
2 針板ふたを取り外します。

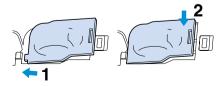
3 右手でボビンを持ち、左手で糸端を持ちます。

4 糸が左巻きになるようにして、右手でボビンを釜に入れます。

注 意

● ボビンは必ず指で押さえ、正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、ボビンを逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

5 右手でボビンを軽く押さえ、左手で糸を図のように引っかけます。

6 図のようにミゾにそって糸を通し、手前に引いて糸を切ります。

▷ カッターで糸が切れます。

● 内釜の板バネの間に、確実に糸が入っていることを確認してください。入っていない場合は、もう一度糸をかけ直してください。

7 針板ふたをもとに戻します。

針板ふたの左下の部分を本体に差し込んでから、右側を上から押します。

▷ 下糸のセットが完了します。

お知らせ

● **下糸は引き出さずに、このままぬい始めることができます。**下糸を引き出してからぬう場合は、上糸をセットしてから「下糸を引き出してからぬうとき」（→P.28）を参照してください。

上糸をセットしましょう

上糸用の糸こまをセットし、針に糸を通します。

注意

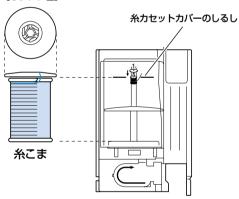
- **上糸通しは指示に従って、正しく行ってください。糸が正しく通されていない場合、糸がからんで針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

糸こまについて

本製品は、付属の糸カセットに糸こまをセットして上糸を通します。ここでは糸こまについて説明します。

■ 糸カセットにセットできる糸こま

通常は、糸カセットに糸こまをセットして使用します。セットできる糸こまは、糸こま押え［オレンジ色］より小さい直径で、糸カセットのカバーのしるしよりも高さが低いものです。

■ 糸カセットにセットできない糸こま

糸カセットにセットできない糸こまを使用するときは、付属の補助糸たて棒を使用します。

補助糸たて棒を使用するときは、糸こまの大きさによって、糸こま押え［白大］または［白小］をセットします。糸こまの直径より大きい糸こま押えを使用してください。

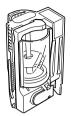
お知らせ

- 補助糸たて棒の使い方は、「補助糸たて棒を使うとき」（→ P.26）を参照してください。
- 綾巻き（チーズ巻き）の糸こまを使用するときは、糸こま押え［白小］を使用します。

注意

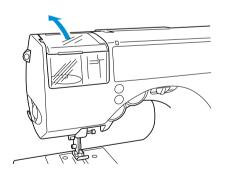
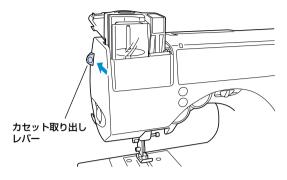
● 糸こま押えは糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまの直径より小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、針折れの原因となります。

糸こまを糸カセットにセットする

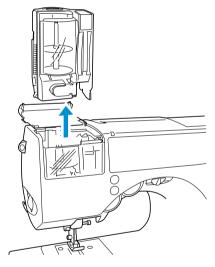
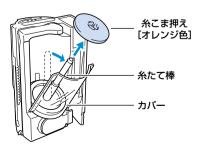
糸こまを糸カセットにセットします。付属の糸カセットと上糸用の糸こまを用意します。

お知らせ

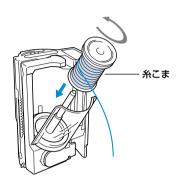
● 糸カセットに糸を通す順番が示されています。そちらもあわせて見てください。

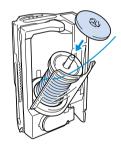
1 電源を入れます。

2 本体左上のカセットカバーをあけます。

3 本体左側面のカセット取り出しレバーを奥側に押します。

▷ 糸カセットが上に上がります。

- 電源が入っていないと、糸カセットが正しく上がりません。

4 糸カセットを取り出します。

5 糸カセットのカバーを手前に引き、糸たて棒に差し込んである糸こま押えを抜きます。

6 上糸用の糸こまを糸たて棒に差し込みます。

上から見て、左回りになる向きに差し込みます。

7 糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

糸こま押えは、丸みをおびている面を上にして、糸こまにくっつくまで差し込みます。

- 糸カセットにセットできる糸こま押えは、糸こま押え［オレンジ色］のみです。

注意

- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、糸切れや針折れの原因となります。

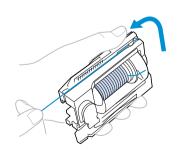
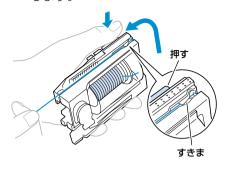
8 右手で糸端を持ち、左手で糸カセットを持ってカバーをしめます。※

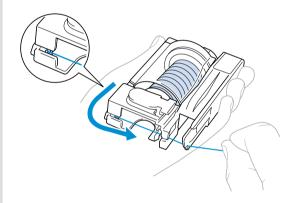
※ 糸カセットのカバーを閉めるときは「カチッ」と音がするまで閉めてください。

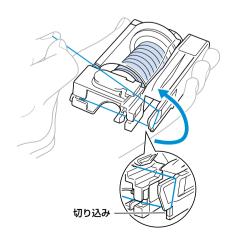
9 糸カセットの上部のミゾに糸を通します。

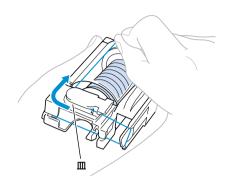
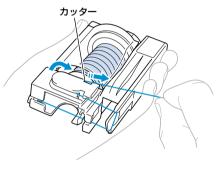
糸カセットに表示された矢印２に従います。

10 糸を左に引き、左側面のミゾに糸をそわせます。

糸カセットに表示された矢印３に従います。

● メタリック糸などの特殊な糸を使用する場合は、左手の親指で図の部分を押すとすきまができるので、糸が通しやすくなります。

11 底面に糸を通します。

糸カセットに表示された矢印４に従います。

12 右下側の切り込みに糸を引っかけてから左に引きます。

糸カセットに表示された矢印５に従います。

13 前面下の皿部分に下から右回りに糸をかけて引っ張り、カッターで糸を切ります。

糸カセットに表示された矢印6に従います。

▷ 糸カセットに糸こまがセットできました。

お願い

- 必ず上記の方法で糸を切ってください。カッターで糸を切らないと、糸通し装置を使って針に糸を通すことができません。

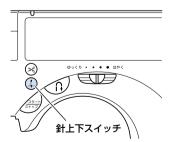
針に糸を通す

糸カセットをミシンにセットし、針に糸を通します。糸カセットをセットすると同時に、糸通し装置で針に糸が通ります。

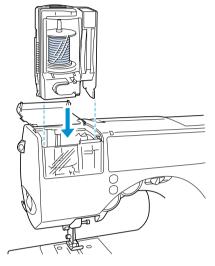
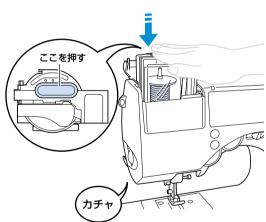
お知らせ

- 糸通し装置は、11～16番のミシン針を使うときに使用できます。
- 20番以下の太い糸は、糸通し装置は使用できません。
- 糸通し装置が使用できない場合は、「手で針に糸を通すとき」（→ P.27）を参照してください。

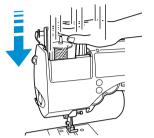
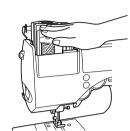
1 カセット挿入ランプが緑に点灯していることを確認します。

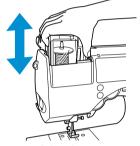
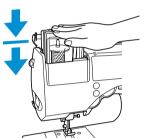
カセット挿入ランプが赤に点灯しているときは、針が正しい位置まで上がっていません。（針上下スイッチ）を1回押して針を上げてください。

- 針が正しい位置まで上がっていないと、糸通し装置で糸を通すことができません。必ずカセット挿入ランプが緑に点灯していることを確認してから、糸カセットをセットしてください。

❷ 糸カセットをカセット挿入口にセットします。

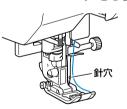
糸カセットをカセット挿入口にセットするときは、糸カセット上部のグレーの部分をゆっくりと「カチャ」と音がするまで一気に下に押します。

▶ 糸カセットがセットされ、同時に針に糸が通ります。

▶ カセット挿入ランプが消えます。

● 以下のような操作は、針穴に糸が通らなかったり、故障の原因となりますので注意してください。

× 押すのが早すぎる

× グレー部分以外を押す

× 途中で出し入れする

× 途中で止めてそのまま下まで押し下げる

● 針穴に糸が通らなかったり、針棒糸かけに糸がかかっていない場合は、「糸こまを糸カセットにセットする」の ❷ ～ （→ P.21）をもう一度やり直してください。

× 糸が針穴に通らない

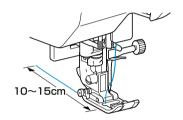
× 糸が針棒糸かけにかからない

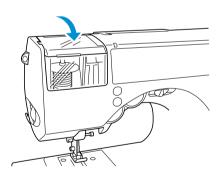
注意

● 針に糸を通すときに、糸通し装置が作動します。針部周辺に手や物を近づけないでください。ケガの原因となります。

3 押えレバーを上げ、針に通った糸の端を引き出します。

糸の輪の部分を後ろ側にゆっくりと引きます。

4 糸の端を押えの間に通し、後ろ側に10～15cm ほど引き出します。

▷ 上糸のセットが完了します。

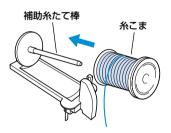
5 カセットカバーをしめます。

▷ これで上糸の準備ができました。

お願い

- 糸カセットをカセット挿入口にセットするときは、ゆっくりと押してください。
- 糸通しができなかったときは、糸カセットに糸をセットするところからやり直してください。

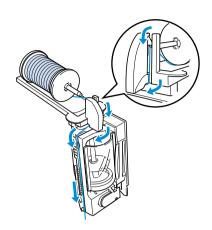
補助糸たて棒を使うとき

糸カセットにセットできない大きさの糸こまを使用するときは、付属の補助糸たて棒を使用します。

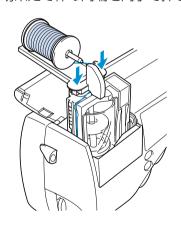
1 補助糸たて棒に糸こまを差します。

2 糸こまの大きさに合わせて、糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

- 「糸こまについて」（→P.20）を参照してください。

3 補助糸たて棒の凸部を、糸カセット上部のミゾに差し込みます。

4 補助糸たて棒にセットした糸こまの糸を、糸カセットに通します。

●「糸こまを糸カセットにセットする」（→P.21）を参照してください。

5 補助糸たて棒を取り付けた糸カセットをカセット挿入口にセットします。

補助糸たて棒の両端を両手で押します。

▷ 糸カセットがセットされ、同時に針に糸が通ります。

▷ 補助糸たて棒がセットできました。

手で針に糸を通すとき

糸通し装置が使用できない20番以下の太い糸や特殊な糸を使用するときなどは、以下の手順で針に糸を通します。

1 針を取り外します。

●「針を交換する」（→P.30）で説明します。

● 糸通し装置が使用できない糸を使用するときは、必ず針を外してください。故障の原因となります。

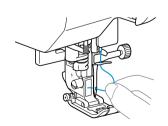
2 カセット挿入ランプが緑色に点灯していることを確認し、糸カセットをカセット挿入口にセットします。

●「針に糸を通す」の 1 ～ 2 （→P.24）を参照してください。

▷ 糸端が針棒糸かけにかかります。

3 針を取り付けます。

●「針を交換する」（→P.30）で説明します。

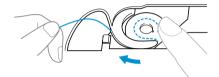
4 針穴の手前から向こう側に、手で糸を通します。

下糸を引き出してからぬうとき

ギャザーをぬうときなどは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。

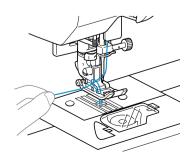
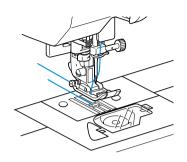
1 ボビンを釜に入れます。

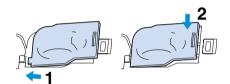
●「下糸をセットする」の 1 ～ 5 （→ P.18）を参照してください。

2 引き出した糸をミゾにそって通します。

このとき、カッターで糸を切らないでください。

3 針が上がっている状態で左手で上糸を軽く持ち、(針上下スイッチ）を2回押します。

▶ 針が上に上がり、下糸が針板から輪になって引き出されます。

4 上糸をゆっくりと上に引き、下糸の糸端を引き出します。

5 下糸を10～15cmほど引き出し、上糸とそろえて押えの下を通します。

6 針板ふたをもとに戻します。

針板ふたの左下の部分を本体に差し込んでから、右側を上から押します。

針を交換するには

ここでは、ミシン針について説明します。

針に関する注意

針を取り扱うときの注意を説明します。以下の注意を守らないと、針が折れて飛び散るなど非常に危険です。よく読んで、必ず守ってください。
仕上がり良くぬい上げるためには、ブラザー純正のミシン針（HA × 1）を推奨します。

 注意

- **針は必ず家庭用ミシン針（HA × 1）を使用してください。その他の針を使用すると、針折れや故障の原因となります。**
- **曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。**

針の種類と使い分け

ミシン針は布地や糸の太さによって使い分けます。次の表を参考にして、布地に合った糸と針を選んでください。

布地の特徴・種類		ミシン糸		針の種類
		種類	太さ	
普通地	ブロード	綿糸	60~80	11~14
	タフタ	合繊糸		
	フラノ ギャバシン	絹糸	50~80	
薄地	ローン	綿糸	60~80	9~11
	ジョーゼット	合繊糸		
	ボーラ	絹糸	50~80	
厚地	デニム	綿糸	30~50	14~16
	コーデュロイ	合繊糸	50	
	ツィード	絹糸		
のびる布地	ジャージ	ニット用糸	50~60	ゴールデン針 11~14
	トリコット			
ほつれやすい布地		綿糸	50~80	9~14
		合繊糸		
		絹糸		
ステッチ糸の場合		合繊糸	30	14~16
		絹糸		

■ 糸と針の数字

糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。

■ ゴールデン針

伸縮性のある布地や目がとびやすい布地に使用します。

■ ナイロン透明糸

布地や糸にかかわらず14~16番の針を使用してください。

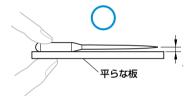
- 購入時は、11番の針がミシンに取り付けられています。

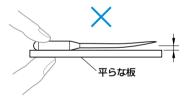
注意

- **布地と糸と針の組み合わせは、左記に従ってください。組み合わせが適切でない場合、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因になります。特に厚い布地（デニム等）を細い針（9~11番）でぬうと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

正しい針の見分け方

針が曲がった状態で使用すると、途中で折れてしまうことがあり非常に危険です。
使用する前に、針の平らな面を平らな板に合わせ、針と板のすき間が平行かどうかを確認します。

■ 良い針

■ 悪い針

すき間が平行でない場合は、針が曲がっています。その針は使用しないでください。

針を交換する

針を交換します。「正しい針の見分け方」で確認した良い針と、付属のドライバーを用意してください。付属の針交換ツールを使用すると、安全に針を交換することができます。

1 （針上下スイッチ）を１回または２回押し、針を上に上げます。

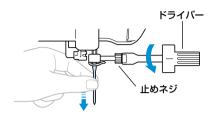
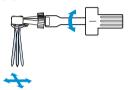
2 電源を切ります。

注意

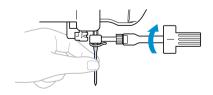
● 針の交換は、必ず電源スイッチを切って行ってください。万一、スタート／ストップスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

3 押えレバーを下げます。

4 針の止めネジをゆるめ、針を抜きます。

左手で針を持ちながら、右手でドライバーを手前に回します。

● 止めネジをゆるめたりしめたりするときに、無理な力を加えないでください。故障の原因となります。

5 新しい針の平らな面を後ろ側に向けて、針棒のストッパーに当たるまで差し込みます。

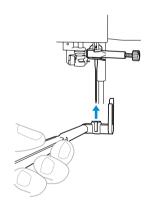
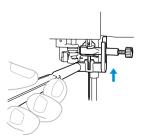
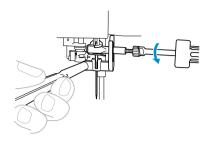
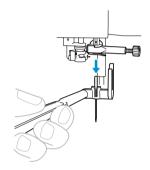
6 針を左手で押さえたまま止めネジをしめます。

ドライバーを奥側に回します。

注意

● 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、止めネジを付属のドライバーで確実にしめてください。針が十分に差し込まれていなかったり、ネジのしめ方がゆるいと、針折れや故障の原因となります。

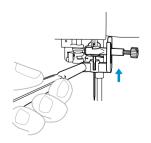
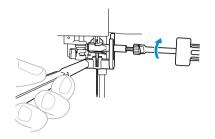
■ 針交換ツールを使う

付属の針交換ツールを使って、針を交換する手順を説明します。

1 針交換ツールの穴に針を通します。

2 針交換ツールを上に上げて、ふたまた部分を針の止めネジの棒にはさみます。

3 ドライバーで針の止めネジをゆるめます。

4 針交換ツールを下に下げます。

▷ 針が針棒から外れます。

5 新しい針を針交換ツールの穴に刺します。

針の平らな面を後ろ側に向けて刺します。

6 針交換ツールを上に上げて、ふたまた部分を針の止めネジの棒にはさみます。

7 針がストッパーにあたったら、ドライバーで針の止めネジをしめます。

▷ 針が取り付けられます。

8 針交換ツールを下に下げて針を抜きます。

押えを交換するには

押えに関する注意

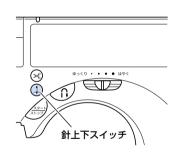
押えについて気をつけなければいけないことを説明します。

注意

● 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たったり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。
● 押えは必ず本機専用の押えを使用してください。その他の押えを使用すると、ケガ・故障の原因となります。

押えを交換する

押えの取り外し方と取り付け方を説明します。

1 （針上下スイッチ）を1回または2回押し、針を上に上げます。

▷ 針が上に上がります。

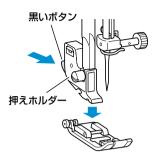
2 電源を切ります。

注意

● 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

3 押えレバーを上げます。

▷ 押えが上がります。

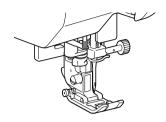
4 押えホルダーの後ろ側の黒いボタンを押します。

▷ 押えが押えホルダーから外れます。

5 取り付ける押えのピンの部分と押えホルダーのミゾが合う位置に押えを置きます。

押えに記されているA・G・I・J・M・N・Rの押え記号が読める向きに置きます。

6 押えレバーをゆっくり下げて、押えホルダーのミゾを押えのピンにはめます。

▷ 押えが取り付けられます。

7 押えレバーを上げて、押えが取り付けられていることを確認します。

お知らせ

- 各模様で使用する押えは、表示パネルの模様の上に示されています。

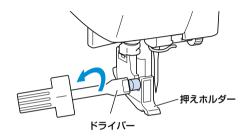
押えホルダーを外す

お手入れをするときや別売のウォーキングフットを取り付けるときは、押えホルダーを外します。付属のドライバーを用意します。

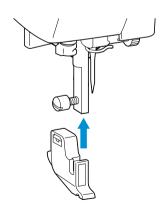
1 押えを外します。

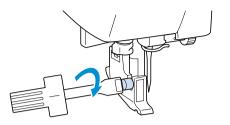
● 「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

2 押えホルダーのネジをゆるめます。

ドライバーを奥側に回します。

▷ 押えホルダーが外れます。

■ 押えホルダーを取り付けるとき

1 押えホルダーを押え棒に合わせます。

2 押えホルダーを右手で押さえながらネジをしめます。

左手でドライバーを手前に回します。

お願い

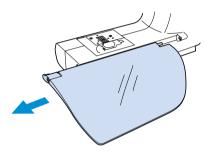
● 押えホルダーが正しく取り付けられていないと、正しい糸調子にならないことがあります。

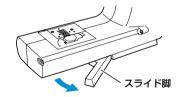
筒ものをぬうとき

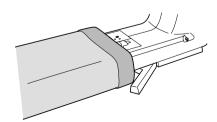
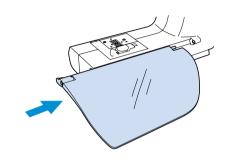
筒ものをぬうときは、フリーアームにします。

フリーアームにする

そで口やズボンのすそなどの筒状になっているところをぬうときは、フラップを外してフリーアームにすると便利です。

1 フラップを左にずらします。

▷ フラップが外れて、フリーアームの状態になります。

2 本体下のスライド脚を手前に引きます。

● フリーアームにしたときは、スライド脚を引き出してください。

3 ぬうところをアーム部分に通して外側からぬいます。

4 ぬい終わったら、スライド脚とフラップをもとに戻します。

2 ぬい方の基本

ここでは、基本のぬい方と上手にぬうコツなどを説明します。

ぬってみましょう

ここでは、基本のぬい方を説明します。
ミシンをかける前に、注意事項を説明します。

注意

- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針、プーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。
- 縫製中は布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。ケガ・針折れの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

ミシンかけの手順

ミシンをかけるときの基本の手順は次のとおりです。

1　電源を入れる
ミシンの電源を入れます。
「電源を入れる」（→P.13）を参照してください。

2　模様を選ぶ
ぬう箇所に合わせて模様を選びます。
「模様を選ぶ」（→次ページ）で説明します。

⇩

3　押えを取り付ける
模様に合った押えを取り付けます。
「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

⇩

4　布地をセットする
ぬう箇所をミシンにセットします。布地の表・裏や、ぬう順番に注意しましょう。
「布地をセットする」（→P.41）で説明します。

⇩

5　スタート
ミシンをスタートさせます。
「ミシンをスタートさせる」（→P.42）で説明します。

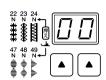
⇩

6　糸切り
ぬい終わった糸を切ります。自動で切ることもできます。
「糸を切る」（→P.46）で説明します。

模様を選ぶ

操作パネルを使って、各種の模様を選択します。

電源を入れた直後は、00 J が選択されています。

模様番号の下に、アルファベット（A、G、J、N、R）で使用する押えが表示されています。

1 使用する模様を決めます。

2 模様に合った押えを用意します。

●「模様設定一覧」（→P.90）を参照してください。

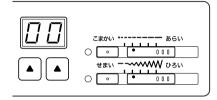
3 押えを取り付けます。

●「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

4 電源を入れます。

▷ 電源が入ると、「00」が表示されます。

5 ▲ ▲（模様選択キー）を押します。選択した模様の番号が表示されます。

▲を押すごとに 1 つずつ数字が増えます。「9」（左のキーの場合は「4」）までいくと、番号は「0」に戻ります。右側の▲を押すと一桁の数字が、左側の▲を押すと十桁の数字が変更されます。

▷ 模様が選択されます。

6 必要に応じて、振り幅とぬい目の長さを調節します。

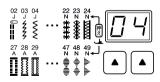
●調節のしかたは以下を参照してください。

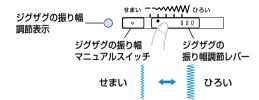
■［例］模様 04 J を選択する場合

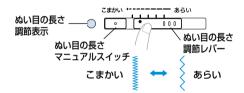
1 模様選択キーを押し、「04」模様を選択します。

右側の▲キーで「4」を、左側の▲キーで「0」を選択します。

ぬい方の基本

ぬってみましょう

② ジグザグの振り幅調節レバーを左、または右にスライドさせ、振り幅を調節します。

ジグザグの振り幅マニュアルスイッチを押してから、ジグザグの振り幅調節レバーをスライドさせて調節します。

③ ぬい目の長さ調節レバーを左、または右にスライドさせ、ぬい目の長さを調節します。

ぬい目の長さマニュアルスイッチを押してから、ぬい目の長さ調節レバーをスライドさせて調節します。

お知らせ

- 詳細は「模様の幅と長さを調節する」(→P.48)を参照してください。

布地をセットする

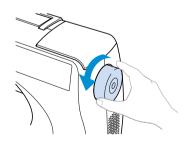
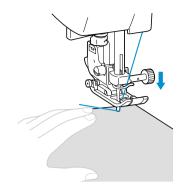
布地の表・裏や、ぬう順番に注意して布地をセットします。

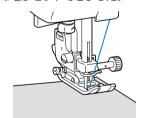
1 電源を入れます。

2 (針上下スイッチ)を1回または2回押し、針を上に上げます。

3 押えの下に布地を置きます。

● ぬいしろが右側になるように置くと、まっすぐにぬいやすく、余分な布地がじゃまになりません。

4 左手で糸と布地を押さえ、右手でプーリーを手前に回して布地に針を刺します。

5 押えレバーを下げます。

▶ 布地がセットできました。

ミシンをスタートさせる

準備ができたら、ミシンをスタートさせます。
ミシンをスタートさせるには、指で操作する方法と、別売のフットコントローラーを使って足で操作する方法があります。

■ 指で操作する

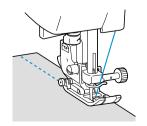
操作スイッチの （スタート／ストップスイッチ）を押して操作します。

1 スピードコントロールレバーを左右に動かして、速度を調節します。

左に動かすと遅く、右に動かすと速くなります。

スピードコントロールレバー

2 （スタート／ストップスイッチ）を1回押します。

スタート／ストップスイッチ

▷ ミシンがスタートします。

● スタート直後とスタート／ストップスイッチを押し続けている間は、ゆっくり進みます。

3 ぬい終わりまで進んだら、もう一度 （スタート／ストップスイッチ）を1回押します。

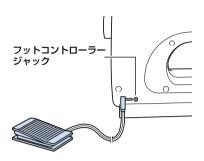
▷ 針が下がった（布地に刺さった）状態でミシンが止まります。

■ 足で操作する

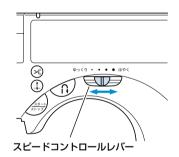
別売のフットコントローラーを使って足で操作します。

1 電源を切ります。

フットコントローラーを接続するときに、誤ってミシンがスタートしないよう、必ず電源を切っておきます。

② 本体背面のフットコントローラージャックに、フットコントローラーのプラグを差し込みます。

③ 電源を入れます。

④ スピードコントロールレバーを左右に動かして、速度を調節します。

左にすると遅く、右にすると速くなります。

スピードコントロールレバー

- スピードコントロールレバーで設定した速度が、フットコントローラーの最高速度になります。

⑤ ぬう準備ができたら、フットコントローラーをゆっくり踏み込みます。

深く踏み込むと速く、浅く踏むと遅くなります。

- 強く踏むとミシンが速く進んでしまうので注意してください。

▷ ミシンがスタートします。

⑥ ぬい終わりまで進んだら、踏むのをやめます。

▷ 針が下がった（布地に刺さった）状態でミシンが止まります。

お知らせ

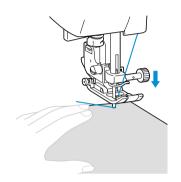
- フットコントローラージャックにフットコントローラーのプラグが差し込まれているときは、スタート／ストップスイッチは使用できません。
- ミシンを止めると、針は下がった状態になります。ミシンを止めたときに針が上になるように設定を変更することもできます。「針停止位置の変更」（→P.101）を参照してください。

注意

- **フットコントローラーに糸くずやほこりなどがたまらないようにしてください。火災・感電の原因となります。**
- **フットコントローラーの上に物を置かないでください。ケガ・故障の原因となります。**
- **長期間ご使用にならないときは、フットコントローラーのプラグをジャックから抜いてください。火災・感電の原因となります。**

返しぬい／止めぬいをする

ぬい始めとぬい終わりは、糸の端がほつれないように返しぬいまたは止めぬいをします。
ここでは、直線ぬいの場合を例に説明します。

1 ぬい始めの位置に針を刺し、押えレバーを下げます。

2 （スタート／ストップスイッチ）を押すか、またはフットコントローラーを踏みます。

このとき、スタート／ストップスイッチを押したままにしておくと、ゆっくり進みます。

● スタートの手順は、「ミシンをスタートさせる」（→ P.42）を参照してください。

▷ ミシンがスタートします。

3 3〜5針ほどぬったら、（返しぬいスイッチ）を押します。

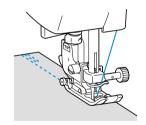
ぬい始めの位置に戻るまで返しぬいスイッチを押したままにします。

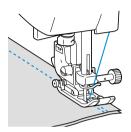
▷ 返しぬいスイッチを押している間、後ろに向かって針が進みます。

4 ぬい始めの位置まで戻ったら、返しぬいスイッチから手を離します。

▷ ミシンが止まります。

5 （スタート／ストップスイッチ）を押すか、またはフットコントローラーを踏みます。

▷ 通常の向きに針が進みます。

6 ぬい終わりまできたら、（返しぬいスイッチ）を押します。

3～5針戻るまで返しぬいスイッチを押したままにします。

▷ 返しぬいスイッチを押している間、後ろに向かって針が進みます。

7 3～5針ほどぬったら、（返しぬいスイッチ）から手を離します。

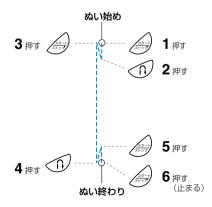
▷ ミシンが止まります。

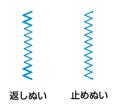
8 （スタート／ストップスイッチ）を押すか、またはフットコントローラーを踏みます。

このとき、スタート／ストップスイッチを押したままにしておくと、ゆっくり進みます。

▷ 通常の向きに針が進みます。

9 ぬい終わりの位置まできたら、ミシンを止めます。

スタート／ストップスイッチを押すか、フットコントローラーを踏むのをやめます。

■ 模様をぬうとき

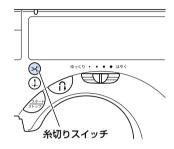
直線・ジグザグ以外の模様でぬっていた場合に（返しぬいスイッチ）を押すと、止めぬいになります。止めぬいは、その位置で3～5針重なります。

お知らせ

● 返しぬい／止めぬいのどちらが設定されているかは、「模様設定一覧」（→P.90）を参照してください。

糸を切る

ぬい終わったら糸を切ります。糸を切るには、２つの方法があります。

■ 糸切りスイッチ

① ぬい終わった位置で、✂（糸切りスイッチ）を１回押します。

▷ 糸が切れ、針が上に上がります。

② 押えレバーを上に上げて、布地を取り出します。

注意

● 糸を切ったあとは、糸切り操作をくり返し行わないでください。針折れや糸がらみ、故障の原因となります。

● 布地が押えの下にない状態やミシンが動いているときは糸切りスイッチを押さないでください。このようなときに糸切りスイッチを押すと、故障の原因となります。

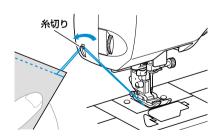
■ 糸切り

30番よりも太い糸やナイロン糸、メタリック糸などの特殊な糸を使用しているときは、本体左側面の糸切りを使って糸を切ります。

① ぬい終わってミシンを止めたら、（針上下スイッチ）を１回押します。

▷ 針が上に上がります。

② 押えレバーを上げます。

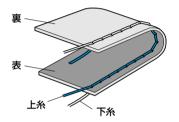
③ 布地を左に引き、本体左側面の糸切りに上糸と下糸を引っかけて切ります。

糸調子を調節する

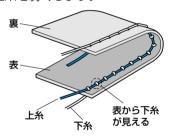
上糸と下糸の強さのバランス（糸調子）を調節します。

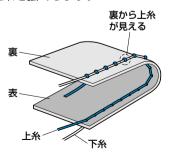
糸調子とは

思い通りの糸調子にならないときや、特殊な糸や素材をぬう場合などは、上糸の調子を強く、または弱くして調節します。

■ 正しい糸調子

上糸と下糸が布の中央でまじわります。布地の表には上糸、裏には下糸だけが見える状態です。

■ 上糸が強いとき

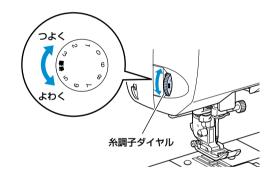
布地の表に下糸が見えている状態です。この場合は上糸を弱くします。

■ 上糸が弱いとき

布地の裏に上糸が見えている状態です。この場合は上糸を強くします。

上糸の調子を変更する

本体左側面の糸調子ダイヤルで変更します。

1 **実際に使用する布地のはぎれと糸を使用して、試しぬいをします。**

2 **左記の図を参考にし、本体左側面の上糸調子ダイヤルを動かします。**

数字が大きいほど上糸調子が強くなります。

3 **適切な糸調子になるまで、試しぬいをします。**

模様の幅と長さを調節する

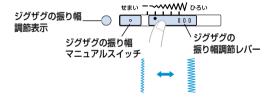
模様の振り幅とぬい目の長さを調節できます。模様を選択すると、自動的に適切な幅と長さが設定されます。各模様で設定できる幅と長さの値は、「模様設定一覧」（→ P.90）を参照してください。

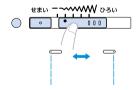
模様の幅を調節する

1 **操作パネルのジグザグの振り幅マニュアルスイッチを押します。**

▷ ジグザグの振り幅調節表示が点灯します。

2 **ジグザグの振り幅調節レバーを左、または右にスライドさせます。**

ジグザグの振り幅調節レバーを左へスライドさせるとぬい幅がせまく、右へスライドさせるとぬい幅がひろくなります。

■ 針位置を変えるとき

模様が直線［左］と三重ぬいのときに模様の幅を変更すると、針の位置が調節できます。ジグザグの振り幅調節レバーを左へスライドさせると針の位置が左へ、右へスライドさせると針の位置が右へ移動します。

● 標準の幅に戻すときは、もう一度ジグザグの振り幅マニュアルスイッチを押します。

注意

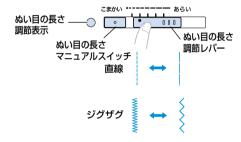
● **振り幅を調節したときはプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

ぬい目の長さを調節する

1 操作パネルのぬい目の長さマニュアルスイッチを押します。

▷ ぬい目の長さ調節表示が点灯します。

2 ぬい目の長さ調節レバーを左、または右にスライドさせます。

ぬい目の長さ調節レバーを左へスライドさせるとぬい目がこまかく、右へスライドさせるとぬい目があらくなります。

● 標準の長さに戻すときは、もう一度ぬい目の長さマニュアルスイッチを押します。

注意

● **ぬい目が詰まる場合は、ぬい目の長さをあらくしてください。ぬい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

上手にぬうコツ

ここでは、上手にぬうためのコツを説明します。ミシンかけをするときの参考にしてください。

試しぬいをする

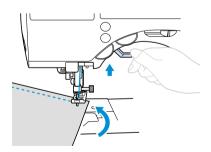
本製品は、模様に合わせて適切な幅と長さが設定されています。
しかし、布の種類やぬい方によっては必ずしも思い通りにならないことがあるので、試しぬいをするようにしましょう。
試しぬいは、実際に使用する布地のはぎれと糸を使用して、糸調子などを確認します。ぬい方や布を何枚重ねてぬうかによってもぬった結果は異なるので、実際にぬうものと同じ状態で試しぬいをします。

ぬう方向を変える

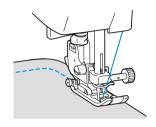
1 角までぬったら、ミシンを止めます。

このとき、針が下がった（布地に刺さった）状態にしておきます。もし針が上がっている場合は、（針上下スイッチ）を押して針を下げます。

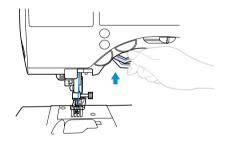
2 押えレバーを上げ､布を持って回します。

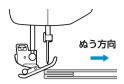
針位置を基点に回転させます。

3 押えレバーを下げ、続きをぬいます。

カーブをぬう

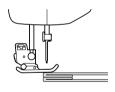
途中でミシンを止めながら、少しずつ向きを変えてぬいます。「ぬいしろの幅をそろえる」（→P.52）を参考にして、ぬいしろと平行になるようにぬいます。

厚い布地をぬう

■ **押えの下に布地が入らないとき**

押えレバーをさらに上に上げると、押えがもう一段階上がります。

■ ぬい始めに段差があって布地が送らないとき

ジグザグ押え <J> には、押えを水平にする機能が付いています。

① ぬい始めに布地に段差があって送らない場合は、押えレバーをいったん上げます。

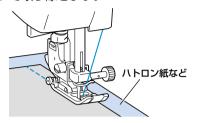
② ジグザグ押え <J> の左側の黒いボタン（押え固定ピン）を押したまま、押えレバーを下げます。

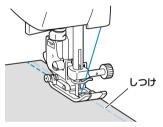
▷ 押えが水平になり、布地が送られるようになります。

▷ ぬい進めると、押えはもとに戻ります。

⚠ 注意

● 6mm以上の厚物をぬったり、無理に布地を押しこんだりすると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

薄い布地をぬう

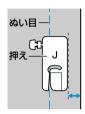
薄い布地をぬうと、ぬい目がつれてしまったり、布がうまく送れないことがあります。
その場合は布地の下にハトロン紙などの薄い紙を敷いて、布地と一緒にぬいます。ぬい終わったら、紙をやぶいて取り除きます。

伸びる布地をぬう

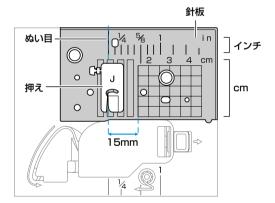
あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。

また、ニット用の糸を使用したり伸縮ぬいを使用すると、きれいにぬうことができます。

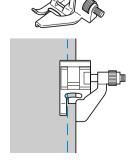
ぬいしろの幅をそろえる

布端と平行に一定の幅でぬうときは、ぬいしろの端が右側になるようにぬい始め、押えの右端か針板の目盛りを基準にしてぬいます。

■ 押えを基準にする場合

押えの右端と布端が一定の幅で平行になるようにぬいます。

■ 針板を基準にする場合

針板には、直線［左］の針位置からの長さが表示されています。針板に刻まれている目盛りと布端を合わせてぬいます。上側の目盛りは 1/8 インチ（約3mm）単位、下側の目盛りは5mm単位になっています。

■ ガイド付押えを使用する場合

別売のガイド付押えは、ガイドの幅を変更して布端をガイドに合わせてぬうと、ぬいしろの幅をそろえてぬうことができます。

3 いろいろなぬい方

ここでは、いろいろなぬい方とその使い方を説明します。

ぬいしろを始末する

裁断した布端がほつれないように、たち目かがりをします。たち目かがりに使用できる模様は、全部で７模様あります。使用する押えごとにぬい方を説明します。

<G> 押えを使ったたち目かがり

次の２模様を選んだときは、たち目かがり押え <G> を使います。

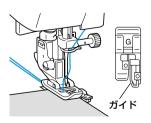
名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
たち目かがり	06 G	普通地・薄地のほつれ止め	3.5	2.5～5.0	2.0	1.0～4.0	G
	07 G	厚地・ほつれやすい布地のほつれ止め	5.0		2.5		

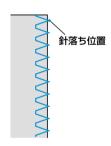
1 たち目かがり押え <G> を取り付けます。

● 「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

2 模様を選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

3 押えのガイドと布地の端が合うように布地をセットし、押えを下げます。

4 布地の端を押えのガイドにそわせてぬいます。

注意

● 振り幅を調節したときはプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

<J> 押えを使ったたち目かがり

次の３模様を選んだときは、ジグザグ押え <J> を使います。

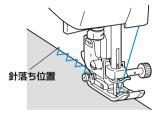
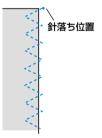
名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
ジグザグ	04	通常のほつれ止め（中基線／返しぬい）	3.5	0.0～7.0	1.4	0.0～4.0	J
3点ジグザグ	05	厚地・伸びる布地のほつれ止め	5.0	1.5～7.0	1.0	0.2～4.0	
たち目かがり	08	伸びる布地のほつれ止め		0.0～7.0	2.5	0.5～4.0	

1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

● 「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

2 模様を選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

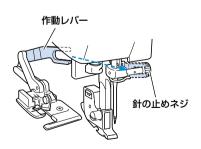
3 布端より少し外側に針を落としてぬいます。

別売のサイドカッター押えを使ったたち目かがり

別売のサイドカッター押えを使って、布地の端を切りながらぬいしろを始末することができます。次の４模様を選んだときは、サイドカッター押えを使います。サイドカッター押えを取り付けたときは、以下の範囲で設定してください。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
たち目かがり	00 J	布地を切りながら直線ぬい	0.0	0.0～2.5	2.5	0.2～5.0	S
	06 G	布地を切りながら薄地・普通地のほつれ止め	3.5	3.5～5.0	2.0	1.0～4.0	
	07 G	布地を切りながら厚地のほつれ止め	5.0		2.5		
	36 J Q	布地を切りながらジグザグ	3.5		1.4	0.0～4.0	

1 押えを外します。

●「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

2 サイドカッター押えの作動レバーのふたまた部分で、針の止めネジの棒を後ろからはさみます。

3 サイドカッター押えのピンと押えホルダーのミゾが合う位置にサイドカッター押えを置き、押えレバーをゆっくり下げます。

▷ サイドカッター押えが取り付けられます。

4 押えレバーを上げて、サイドカッター押えが取り付けられていることを確認します。

注意

● サイドカッターが取り付けられているときに糸カセットをセットする場合は、必ず押えを下げてください。押えが上がっていると糸通し装置が押えに当たり、故障の原因となります。

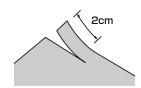
5 上糸はサイドカッター押えの下を通して、後ろ側に引き出します。

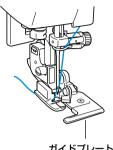
6 模様を選びます。

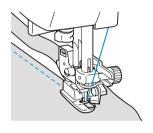
● 「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

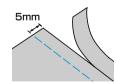
注意

● 振り幅を調節したときはプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

7 布地のぬい始め部分に 2cm の切り込みを入れます。

8 布地をセットします。

布地の切り込みを入れた部分を、サイドカッター押えのガイドプレートの上に置きます。

● 布地を正しく置かないと、布地が切れません。

9 押えレバーを下げ、ミシンをスタートさせます。

▷ ぬいしろが裁断されながらぬわれます。

● 模様を直線にしてぬった場合、ぬいしろは約 5mm になります。

お知らせ

● サイドカッター押えで切れる布地の厚さは、13 オンスデニム 1 枚程度までです。
● サイドカッター押えを使ったあとは、糸くずやほこりを取り除いてください。
● 布地が切れなくなってきたときは、サイドカッター押えの刃を少量の油を含ませた布でふいてください。

地ぬいをする

基本となる直線ぬいをします。直線ぬいは、次の３模様から選択します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
直線［左］	00 J	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど（左基線／返しぬい）	0.0	0.0〜7.0		0.2〜5.0	
直線［中］	01 J	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど（中基線／返しぬい）	–	–	2.5		J
三重ぬい	02 J	ぬい目を丈夫にしたいとき、伸びる布地のとき	0	0.0〜7.0		1.5〜4.0	

地ぬい

1 ぬい合わせるところを、しつけまたはまち針で止めます。

2 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

● 「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

3 模様を選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

4 プーリーを手前に回してぬい始めの位置に針を刺します。

5 ミシンをスタートさせます。

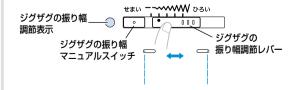
● 「ミシンをスタートさせる」（→P.42）を参照してください。

● 返しぬいをする場合は、「返しぬい／止めぬいをする」（→P.44）を参照してください。

6 ぬい終わったら糸を切ります。

● 「糸を切る」（→P.46）を参照してください。

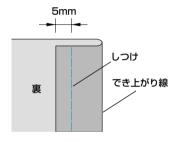
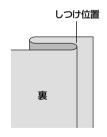
■ 針位置を変えるとき

模様が直線［左］と三重ぬいのときに模様の幅を変更すると、針の位置が調節できます。ジグザグの振り幅マニュアルスイッチを押し、振り幅調節表示を点灯させ、ジグザグの振り幅調節レバーを左へスライドさせると針の位置が左へ、右へスライドさせると針の位置が右へ移動します。

すそ上げをする

スカートやズボンのすそをまつります。まつりぬいは、次の２模様から選択します。

名称	模様	用途	振り幅 自動	振り幅 手動	ぬい目の長さ 自動	ぬい目の長さ 手動	押え
まつりぬい	09 R	普通地のまつりぬい	0	+3〜−3	2.0	1.0〜3.5	R
	10 R	伸びる布地のまつりぬい					

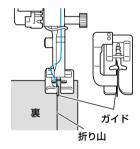
以下の手順でまつりぬいをします。

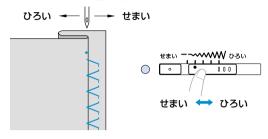
1 ぬいしろをでき上がり線で折り、布端から約５mmのところにしつけをします。

2 しつけをしたところから折り返し、布地の裏を上側にします。

3 まつりぬい押え <R> を取り付けます。

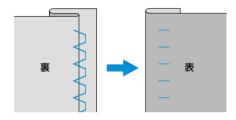
● 「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

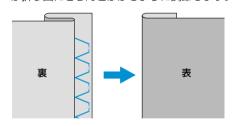
4 模様を選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

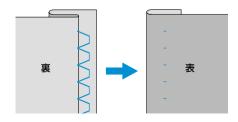
5 押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、押えを下げます。

6 プーリーをゆっくり手前に回して針を下げ、針が折り山に少しかかる位置にあるか確認します。

針落ち位置を変更するときは、針を上げてからジグザグの振り幅を変更します。

■ 針がかかりすぎているとき

針がかかりすぎているときは、ジグザグの振り幅調節レバーを左へスライドさせて振り幅をせまくし、針が折り山にわずかにかかるように調節します。

■ 針がかかっていないとき

針がかかっていないときは、ジグザグの振り幅調節レバーを右へスライドさせて振り幅をひろくし、針が折り山にきちんとかかるように調節します。

● 「模様の幅を調節する」（→P.48）を参照してください。

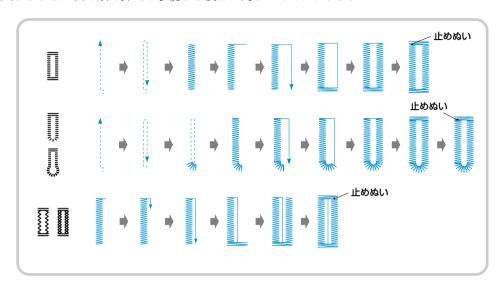
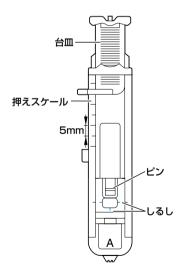
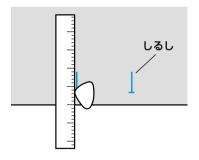
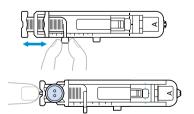
7 折り山に押えのガイドをそわせてぬいます。

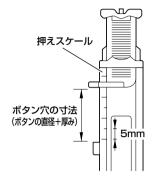
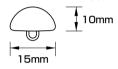
8 しつけをほどき、布地を表に返します。

ボタン穴かがりをする

ボタンホールを作ります。次の５模様から選択できます。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
ボタン穴かがり	26 A	薄地・普通地のねむり穴、横穴	5.0	3.0～5.0	0.4	0.2～1.0	A
	27 A	張りのある素材の両止め用					
	28 A	伸びる布地・編み地用	6.0	3.0～6.0	1.0	0.5～2.0	
	29 A	伸びる布地用			1.5	1.0～3.0	
	30 A	厚地・毛足の長い布地のはとめ穴	7.0	3.0～7.0	0.5	0.3～1.0	
ボタン付け	36 J Q	ボタン付け	3.5	0.0～7.0	1.4	0.0～4.0	M

ボタンホールを作る

「ボタンの直径＋厚み」が約 28mm 以下のボタンホールが作れます。
ボタン穴かがりは、次の順で押えの手前から後ろに向かってぬわれます。

ボタン穴かがりで使用するボタン穴かがり押え<A>の各部の名称は次のとおりです。

1 **ボタン穴かがりをする位置にチャコペンなどでしるしを付けます。**

2 **ボタン穴かがり押え <A> の台皿を引き出し、ボタンをのせてはさみます。**

■ ボタンが台皿にのらないとき

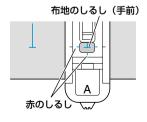
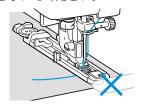
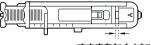
「ボタンの直径＋厚み」を、押えスケールの目盛り（1目盛り 5mm）に合わせて、ボタンホールの大きさを決めます。

例：直径 15mm、厚み 10mm のボタン
→スケールを 25mm に合わせる

▷ ボタン穴かがりの大きさが決まります。

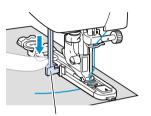
3 ボタン穴かがり押え <A> を取り付けます。

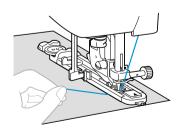
● 「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

4 模様を選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

5 押えの赤のしるしと布地のしるしの手前側を合わせ、押えを下げます。

上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

● 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。

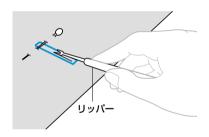
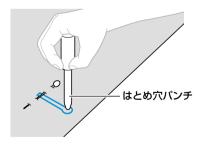
6 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。

ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。

7 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。

▷ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

8 糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

9 ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

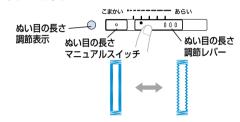
10 ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内側にまち針を刺します。

11 付属のリッパーでボタン穴を切り開きます。

はとめ穴の場合は、付属のはとめ穴パンチで穴をあけてから、リッパーで切り開きます。

- はとめ穴パンチを使用するときは、布地の下に厚紙などを敷いて穴をあけてください。

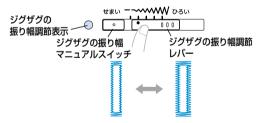
注意

- リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにケガをするおそれがあります。

■ ぬい目の長さを変えるとき

ぬい目の長さマニュアルスイッチを押し、ぬい目の長さ調節レバーをスライドさせてぬい目の長さを調節します。

- 「ぬい目の長さを調節する」(→P.49)を参照してください。
- 厚地の場合などで布地が進まないときは、ぬい目をあらくします。

■ 振り幅を変えるとき

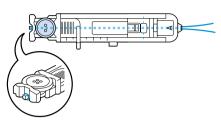
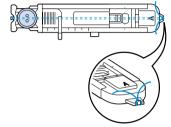
ジグザグの振り幅マニュアルスイッチを押し、ジグザグの振り幅調節レバーをスライドさせて振り幅を調節します。

- 「模様の幅を調節する」(→P.48)を参照してください。

お知らせ

- ボタン穴かがりをするときは、ぬい目の長さや振り幅を確認するため、必ず試しぬいをしましょう。

■ 伸びる布地をぬうとき

伸びる布地にボタン穴かがりをするときは、芯ひもを入れてぬいます。

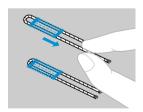
1 ボタン穴かがり押え <A> の図の部分に芯ひもをかけます。芯ひもの端を反対側のミゾにはさんで軽く結びます。

2 ボタン穴かがり押え<A>を取り付けます。

- 「押えを交換する」（→ P.33）を参照してください。

3 模様 28 A または 29 A を選択します。

4 芯ひもの太さより大きめに振り幅を設定します。

5 押えレバーとボタン穴かがりレバーを下げて、ミシンをスタートさせます。

6 ぬい終わったら芯ひもを引いてたるみをなくします。

7 手ぬい針を使用して布地の裏側に芯ひもを引き出して結びます。

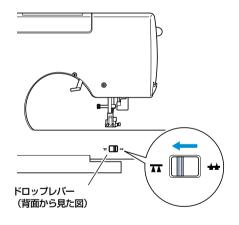
8 付属のリッパーでボタンホールの先に残っている芯ひもの中央を切ります。

残っている芯ひもを取り除きます。

ボタンを付ける

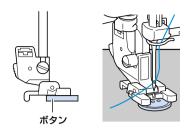
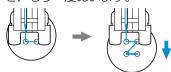
ボタンをぬい付けます。穴が２つまたは４つのボタンが付けられます。

1 ぬい付けるボタンの穴の距離を測ります。

2 押えレバーを上げ、本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側（ ）にします。

▷ 送り歯が下に下がります。

3 ボタン付け押え <M> を取り付けます。

- 「押えを交換する」（→ P.33）を参照してください。

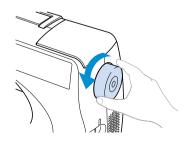
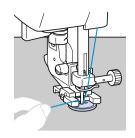
4 ぬい付ける位置にボタンを置き、押えレバーを下げます。

● 4つ穴のボタンを付けるときは、手前の穴を先にぬいます。手前の穴がぬい終わったら、ボタンをずらして後ろの穴に合わせ、もう一度ぬいます。

5 模様 を選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

6 ボタンの穴の間隔と同じになるように、振り幅を調節します。

7 ぬい目の長さ調節レバーで、ぬい目の長さを 1 番短く設定します。

8 プーリーを手前に回し、針がボタンにあたらずにボタン穴に交互に入るか確認します。

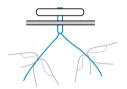
針がボタンにあたる場合は、もう一度ボタン穴の距離を計り直します。

注意

● ぬう際には、ボタンに針が当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

9 ミシンをスタートさせます。

「ゆっくり」のスピードで約10秒ぬった後、（返しぬいスイッチ）を押して返しぬいをします。

10 ぬい終わりの上糸を布地の裏に引き出し、下糸と結びます。

ぬい始めの上糸と下糸は、はさみで切ります。

11 ボタン付けが終わったらドロップレバーを背面から見て右側（ ）にし、送り歯をもとに戻します。

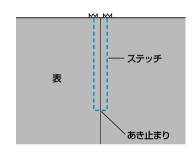
ファスナーを付ける

ファスナーをぬい付けます。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
直線［中］	01 J	ファスナー付け おとしミシンやピンタック	–	–	2.5	0.2~5.0	I

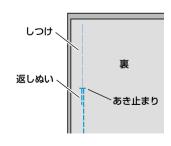
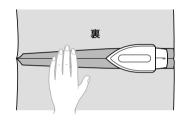
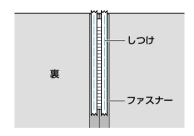
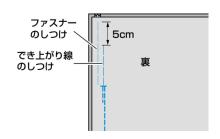
ファスナーの付け方によってぬい方が異なります。ここでは、つき合わせと片返しの場合のぬい方を説明します。

つき合わせ

つき合わせた布地の両方にステッチが入ります。

1 **ジグザグ押え<J>を取り付け、あき止まりから下側に地ぬいをします。**

布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。

● 「地ぬいをする」（→P.58）を参照してください。

2 **ファスナーを付ける部分のでき上がり線にしつけをします。**

3 **ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。**

4 **ぬい目とファスナーの中央を合わせて、しつけをします。**

5 **でき上がり線のしつけを布端から 5cm 程度ほどきます。**

6 片押え <I> のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。

● 「押えを交換する」（→ P.33）を参照してください。

7 模様 を選択します。

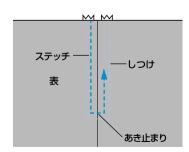
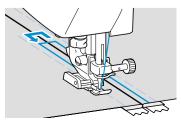
● 「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

注意

● 片押え <I> を使用するときは、必ず直線［中］を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

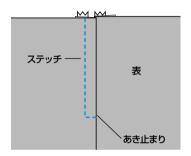
8 布地の表からステッチをかけます。

ファスナーのスライダーが押えに当たる場合は、スライダーを何回か移動させながらステッチをかけます。

注意

● ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

9 しつけをほどきます。

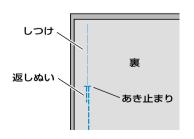
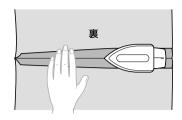
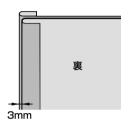
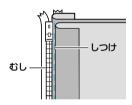
片返し

布地の片側にステッチが入ります。脇ファスナーや後ろファスナーのときに用います。

ここでは、脇ファスナーの例を説明します。

1 ジグザグ押え <J> を取り付け、あき止まりから下側に地ぬいをします。

布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。

● 「地ぬいをする」（→ P.58）を参照してください。

2 ファスナーを付ける部分のでき上がり線にしつけをします。

3 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。

4 右側（ステッチが入らない方）のぬいしろを 3mm 出してアイロンをかけます。

5 3mm 出した折り山とファスナーのむしの端を合わせて、しつけまたはまち針で止めます。

6 片押え <I> のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。

例とは反対側をぬう場合は、左側のピンを取り付けます。

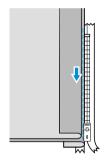
● 「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

7 模様 を選択します。

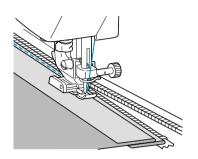
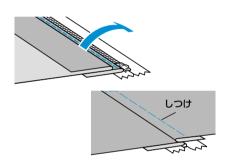
● 「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

注意

● 片押え<I>を使用するときは、必ず直線［中］を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

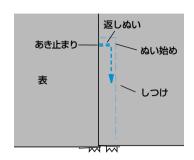
8 3mm 出した折り山部分を、あき止まりの方からぬいます。

注意

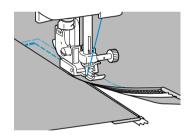
● ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

9 残り 5cm ほどまでぬったらいったんミシンを止めて針を下げたまま押えを上げます。ファスナーを開いて続きをぬいます。

10 ファスナーをとじて表に返し、反対側をしつけします。

11 片押え <I> のピンの逆側を押えホルダーに取り付けます。

6 で右側に付けた場合は、左側に付け替えます。

12 布地の表からステッチをかけます。

あき止まり側から返しぬいをし、しつけをめやすにしてぬいます。

13 残り 5cm ほどまでぬったらいったんミシンを止め、針を下げたまま押えを上げます。

14 でき上がり線のしつけをほどいてファスナーを開き、続きをぬいます。

伸びる布地やゴムテープをぬう

伸びる布地をぬったり、ゴムテープをぬい付けます。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
伸縮ぬい	03 J	伸びる布地	1.0	1.0〜3.0	2.5	1.0〜4.0	J
3点ジグザグ	05 J	ゴムテープ付け	5.0	1.5〜7.0	1.0	0.2〜4.0	

それぞれ以下の点に注意してぬってください。

伸縮ぬい

1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

● 「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

2 模様 03 J を選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

3 布地を伸ばさないようにぬいます。

ゴムテープ付け

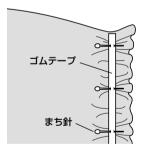
そで口やウエストなどにゴムテープをぬい付ける場合は、ゴムテープが縮んでいる状態ができ上がり寸法になります。必要な長さのゴムテープを用意します。

1 まち針で布地の裏側にゴムテープを止めます。

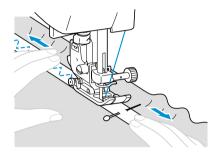
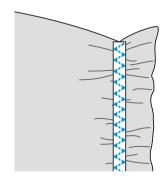
布地とゴムテープが均等になるように数か所止めます。

2 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

● 「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

3 模様 05 を選択します。

●「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

4 ゴムテープが布地と同じ長さになるように伸ばしながらぬいます。

左手で後ろ側の布地を引っ張り、右手で押えに一番近いまち針のところを引っ張ります。

注意

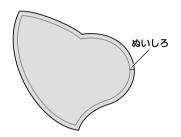
● ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

アップリケ／パッチワーク／キルトをぬう

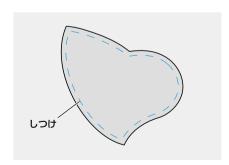
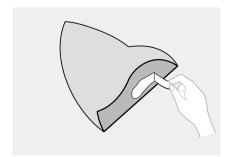
アップリケやパッチワーク、キルトをぬうときに使用する模様について説明します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
ジグザグ	04 J	アップリケ布のぬい付け（中基線／返しぬい）	3.5	0.0~7.0	1.4	0.0~4.0	J
	36 J	アップリケキルト、フリーモーションキルト、サテンぬい					
アップリケ	11 J	アップリケ布のぬい付け		2.5~5.0	2.5	1.6~4.0	
	37 J	アップリケ、バインディング	1.5	0.5~5.0	1.2	1.0~4.0	
	38 J	アップリケ、バインディング					
ピーシング直線	33 J	ピーシング用直線（押え右端から6.5mmのぬいしろ）	5.5	0.0~7.0	1.6	0.2~5.0	
	34 J	ピーシング用直線（押え左端から6.5mmのぬいしろ）	1.5				
つき合わせ	13 J	パッチワーク	4.0		1.2	0.2~4.0	
	14 J		5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~4.0	
	15 J			0.0~7.0	1.2	0.2~4.0	
手ぬい風直線	35 J	手ぬい風キルト直線	0.0		2.5	1.0~4.0	
キルティング模様	39 J	キルトの背景ぬい	7.0	1.0~7.0	1.6		

アップリケ

1 アップリケ布は3～5mmのぬいしろを付けて裁断します。

2 アップリケ布の裏に厚紙の型紙をあてて、アイロンででき上がり線を折ります。

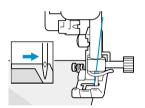
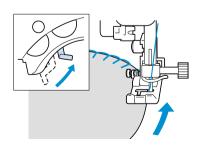
● アイロンで押えた後、厚紙の型紙は取り除きます。

3 アップリケ布を表に返し、土台になる布にしつけまたはのりで止めます。

4 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

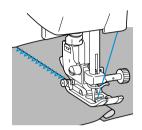
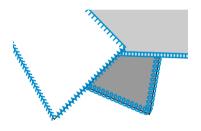
● 「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

5 模様を選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

6 プーリーを手前に回し、アップリケ布の端から少し外側に針が刺さるようにしてぬい始めます。

急な角度をぬうときは、アップリケ布の外側に針を刺したまま、押えを上げて少しずつ方向を変えながらぬいます。

パッチワーク（クレイジーキルト）

1 上になる布地の端を折って下側の布地と重ねます。

2 両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

ピーシング

パッチワークで布と布（ピース）をぬい合わせることを、「ピーシング」といいます。布には、すべて6.5mmのぬいしろを付けて裁断します。
ピーシング用直線は、押えの右端、または左端から6.5mmのところをぬいます。

1 ピーシングする布のぬいしろを、しつけまたはまち針で止めます。

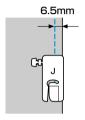
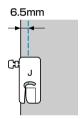
2 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

● 「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

3 模様 33 または 34 を選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

4 押えの端に布端を合わせてぬいます。

■ ぬいしろが右の場合
押えの右端に布端を合わせ、33 の模様でぬいます。

■ ぬいしろが左の場合
押えの左端に布端を合わせ、34 の模様でぬいます。

お知らせ

● ぬいしろの幅を変更する（針位置を変更する）場合は、ジグザグの振り幅を調節します。「模様の幅を調節する」（→P.48）を参照してください。

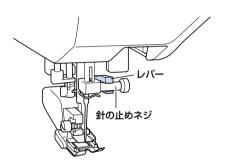
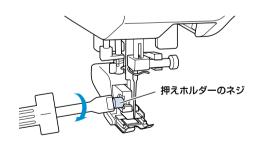
キルティング

表布と裏布の間にキルト綿をはさんでぬい合わせることを、「キルティング」といいます。別売のウォーキングフットやキルターを使用すると、きれいにぬうことができます。

1 キルティングする布をしつけで止めます。

2 押えホルダーを外します。

● 「押えホルダーを外す」（→P.35）を参照してください。

3 ウォーキングフットのレバーのふたまた部分で、針の止めネジの棒をはさみます。

4 押えレバーを下げ、押えホルダーのネジを差し込んで、ドライバーでしめます。

▷ ウォーキングフットが取り付けられました。

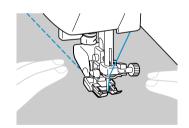
注意

● ネジは付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

● 必ず、ぬう前にプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

5 模様 34 または 36 を選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

6 押えの両側に手を置き、布をしっかりと張ってぬいます。

お願い

● ウォーキングフットを使用するときは、速さをゆっくり～中速でぬってください。

■ キルターを使用する

別売のキルターを使用すると、ぬい目を平行にそろえて等間隔にぬうことができます。

① ウォーキングフットまたは押えホルダーの穴に、キルターの棒を差し込みます。

□ ウォーキングフット

□ 押えホルダー

② ぬい終えたぬい目とキルターのガイドが合うように、棒の長さを調節します。

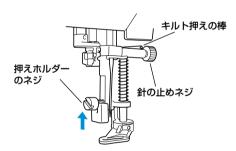
フリーモーションキルト

フリーモーションキルトをするときは、送り歯を下げて（ドロップフィード）布地が自由に動かせるようにします。
フリーモーションキルトをするときは、別売のキルト押えを使用します。

1 押えと押えホルダーを外します。

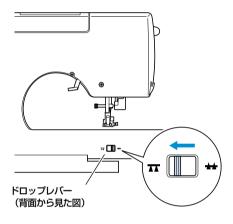
● 「押えホルダーを外す」（→ P.35）を参照してください。

2 キルト押えを押えホルダーのネジにはめます。

キルト押えの棒が、針の止めネジの棒の上になるようにします。

3 キルト押えを右手で押さえ、左手でドライバーを回して押えホルダーのネジをしめます。

注意

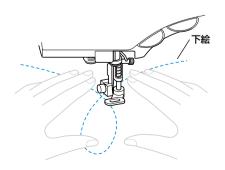
● ネジは、付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

4 本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側（ ）にします。

▷ 送り歯が下に下がります。

5 電源を入れ、模様を選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

6 両手で布地を張ってたるまないようにし、下絵をなぞるように布地を動かします。

ぬい始めとぬい終わりは、止めぬいをします。

7 ぬい終わったらドロップレバーを背面から見て右側（ ）にし、プーリーを１回転させて送り歯をもとに戻します。

● 通常は右側にしておきます。

丈夫にしたいところをぬう

そでぐりや股ぐりなどのぬい目を丈夫にしたり、ポケット口などのあき止まり部分を補強するときに使用します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
三重ぬい	02 J	そでや股下などのぬい目を丈夫にする	0.0	0.0〜7.0	2.5	1.5〜4.0	J
かんどめ	31 A	ポケット口などのあき止まりの補強	2.0	1.0〜3.0	0.4	0.3〜1.0	A

三重ぬい

そでぐりや股ぐりなど、ぬい目を丈夫にしたいところをぬうときに用います。

1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

● 「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

2 模様 02 J を選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

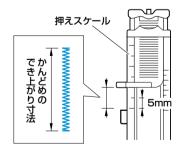
3 ミシンをスタートさせます。

● 「ミシンをスタートさせる」（→P.42）を参照してください。

かんどめ

かんどめは、ポケット口やあき止まりなど、力のかかる部分を補強するときに用います。
ここでは、ポケット口にかんどめをする場合を例に説明します。

1 かんどめの長さを決めます。

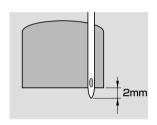
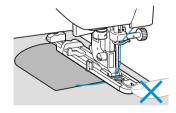
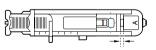
ボタン穴かがり押え<A>の押えスケールの目盛り（1 目盛り 5mm）を合わせて、長さを決めます。

● 最大約 28mm のかんどめができます。

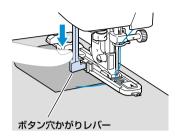
2 ボタン穴かがり押え <A> を取り付けます。

● 「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

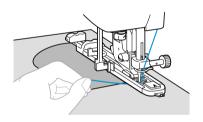
3 模様 31 A を選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

4 ポケット口が手前になる向きに布地を置き、ポケット口より2mm手前に針が刺さる位置で押えを下げます。

上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

● 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。

5 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。

ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。

6 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。

▷ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

7 糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

8 ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

お知らせ

● 厚地などで布地が進まないときは、ぬい目を長く（ぬい目をあらく）します。「ぬい目の長さを調節する」（→P.49）を参照してください。

はとめ穴を作る

ベルトの穴などに使用するはとめ穴（アイレット）を作ります。7mm・6mm・5mmの大きさのはとめ穴ができます。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
アイレット	32 N	ベルトの穴かがりなど	7.0	7.0／6.0／5.0	–	–	N

1 模様ぬい押え <N> を取り付けます。

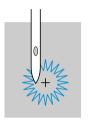
● 「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

2 模様 32 N を選択します。

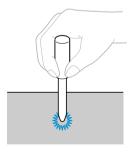
● 「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

3 ジグザグの振り幅、またはぬい目の長さのどちらかを調節して、穴の大きさを選びます。

● 「模様の幅と長さを調節する」（→P.48）を参照してください。

4 ぬい始めの位置に針を刺し、押えレバーを下げます。

5 ミシンをスタートさせます。

▷ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

6 付属のはとめ穴パンチで穴をあけます。

● はとめ穴パンチを使用するときは、布地の下に厚紙などを敷いて穴をあけてください

お知らせ

● 細い糸でぬうと、ぬい目があらくなることがあります。その場合は、重ねて2回ぬうときれいにできあがります。

飾りぬいをする

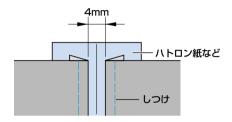
いろいろな飾りぬいができます。

<table>
<tr><th rowspan="2">名称</th><th rowspan="2">模様</th><th rowspan="2">用途</th><th colspan="2">振り幅</th><th colspan="2">ぬい目の長さ</th><th rowspan="2">押え</th></tr>
<tr><th>自動</th><th>手動</th><th>自動</th><th>手動</th></tr>
<tr><td rowspan="2">ファゴティング</td><td>16 J</td><td rowspan="2">布地と布地の間を離してかがる</td><td rowspan="2">5.0</td><td>0.0~7.0</td><td rowspan="2">2.5</td><td rowspan="2">1.0~4.0</td><td rowspan="7">J</td></tr>
<tr><td>17 J</td><td>2.5~7.0</td></tr>
<tr><td rowspan="3">つき合わせ</td><td>13 J</td><td rowspan="3">飾りぬい</td><td>4.0</td><td>0.0~7.0</td><td>1.2</td><td>0.2~4.0</td></tr>
<tr><td>14 J</td><td rowspan="5">5.0</td><td>2.5~7.0</td><td>2.5</td><td>1.0~4.0</td></tr>
<tr><td>15 J</td><td rowspan="2">0.0~7.0</td><td>1.2</td><td>0.2~4.0</td></tr>
<tr><td rowspan="2">スモッキング</td><td>16 J</td><td rowspan="2">スモッキング</td><td rowspan="2">2.5</td><td rowspan="2">1.0~4.0</td></tr>
<tr><td>17 J</td><td rowspan="2">2.5~7.0</td></tr>
<tr><td>スカラップ</td><td>12 N</td><td>サテンスカラップ</td><td>0.5</td><td>0.1~1.0</td><td rowspan="6">N</td></tr>
<tr><td rowspan="8">飾りぬい</td><td>21 N</td><td rowspan="2">レース付け、ふち飾り、ヘアルームなど</td><td>3.5</td><td rowspan="5">1.5~7.0</td><td>2.5</td><td>1.6~4.0</td></tr>
<tr><td>22 N</td><td>6.0</td><td>3.0</td><td rowspan="4">1.5~4.0</td></tr>
<tr><td>23 N</td><td rowspan="3">薄地・普通地・平織り布のふち飾り、ヘアルームなど</td><td rowspan="3">5.0</td><td>3.5</td></tr>
<tr><td>24 N</td><td>4.0</td></tr>
<tr><td>25 N</td><td>2.5</td></tr>
<tr><td>18 J</td><td rowspan="3">飾りぬい</td><td rowspan="2">4.0</td><td rowspan="2">0.0~7.0</td><td>3.0</td><td>2.0~4.0</td><td rowspan="2">J</td></tr>
<tr><td>19 J</td><td>2.5</td><td>1.0~4.0</td></tr>
<tr><td>20 N</td><td>5.0</td><td>1.5~7.0</td><td>1.0</td><td>0.2~4.0</td><td>N</td></tr>
</table>

ファゴティング

布地と布地の間を離して糸でかがるぬい方を「ファゴティング」といいます。ブラウスや子供服などに用います。太い糸を使用するときれいに仕上がります。

1 布地をでき上がり線で折って、アイロンをかけておきます。

2 ハトロン紙などの薄い紙に4mmの間隔をあけて、布地をしつけします。

3 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

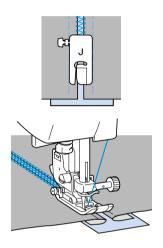
● 「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

4 模様 16 J または 17 J を選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

5 ジグザグの振り幅を7mmに設定します。

● 「模様の幅を調節する」（→P.48）を参照してください。

6 押えの中心を布と布の中心に合わせてぬいます。

7 ぬい終わったら、紙をやぶいて取り除きます。

スカラップ

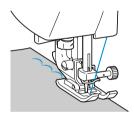
貝殻を並べたような連続した波形の模様を「スカラップ」といいます。ブラウスの衿やハンカチのふち飾りなどに用います。

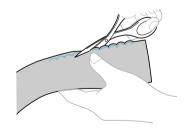
1 模様ぬい押え <N> を取り付けます。

- 「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

2 模様 を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→P.39)を参照してください。

3 模様が布端にかからないように、布端から少し離してぬいます。

- ぬう前に布地にアイロン用スプレーのりをかけておくと、きれいに仕上がります。

4 ぬい目にそって布端を切ります。

- 糸を切らないように注意してください。

スモッキング

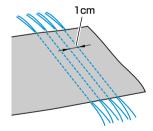
ギャザーの上に模様や刺しゅうをした飾りぬいのことを「スモッキング」といいます。ブラウスの胸もとやそで口の飾りなどに用います。

1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

- 「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

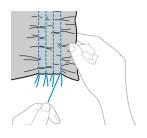
2 直線を選択し、ぬい目の長さを4.0mm、上糸調子を弱めにします。

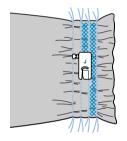
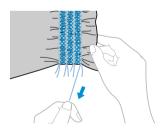
- 「ぬい目の長さを調節する」（→P.49）、「上糸の調子を変更する」（→P.47）を参照してください。

3 1cmの間隔をあけて、平行に数本ぬいます。

- 返しぬいと糸切りはしないでください。

4 **下糸を引いてギャザーを寄せます。**

アイロンでギャザーを整えておきます。

5 **模様 16 J または、17 J を選択します。**

●「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

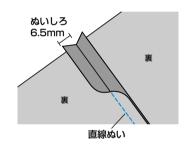
6 **直線ぬいの間をぬいます。**

7 **直線ぬいの糸を抜き取ります。**

つき合わせ

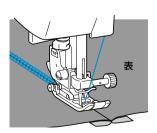
つき合わせたぬいしろ部分の上から飾り模様をぬいます。クレイジーキルトなどに用います。

1 **ジグザグ押え <J> を取り付けます。**

●「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

2 **直線ぬいを選択し、布地を中表にしてぬい合わせ、ぬいしろを開きます。**

3 **模様 13 J または 14 J 、15 J を選択します。**

●「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。

4 **布地を表に返し、押えの中心と布と布の中心を合わせてぬいます。**

ヘアルーム

別売のウィングニードルを使用し、針穴を大きくあけてレース風の飾り模様をぬいます。すその飾りやテーブルクロスなどに用います。薄地または普通地で、張りのある平織りの布地を用意します。

1 ウィングニードルを取り付けます。

- ウィングニードルは、130/705H 100/16（部品コード：XC1301-002）を使用してください。
- 針の取り付け方は、「針を交換する」（→P.30）を参照してください。
- ウィングニードルを取り付けたときは、糸通し装置は使用できません。糸通し装置を使用すると、故障の原因となります。針穴の手前から向こう側に手で糸を通してください。「手で針に糸を通すとき」（→P.27）を参照してください。

2 模様ぬい押え <N> を取り付けます。

- 「押えを交換する」（→P.33）を参照してください。

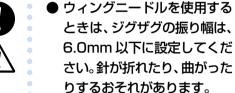
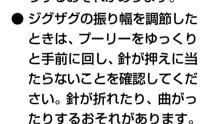
3 模様を選択します。

模様は 21N・22N・23N・24N・25N が適しています。

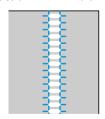
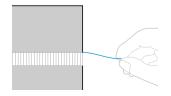
- 「模様を選ぶ」（→P.39）を参照してください。
- ウィングニードルを使用するときは、ジグザグの振り幅を、6.0mm以下に設定してください。

4 ミシンをスタートさせます。

注意

- **ウィングニードルを使用するときは、ジグザグの振り幅は、6.0mm 以下に設定してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**
- **ジグザグの振り幅を調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

ヘアルームの一種で部分的に糸を抜き取ってかがるぬい方を「ドロンワーク」といいます。織りがゆるい布を使うと、きれいに仕上がります。
ここではドロンワークのぬい方の例を2つ紹介します。

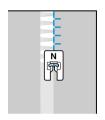
■ ドロンワーク（例 1）

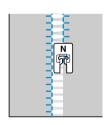
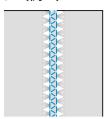
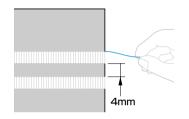
模様を左右反転させて、2 回ぬいます。

1 布地の織り糸を数本抜き取ります。

② 模様ぬい押え <N> を取り付けます。

●「押えを交換する」（→ P.33）を参照してください。

③ 模様 を選択します。

●「模様を選ぶ」（→ P.39）を参照してください。

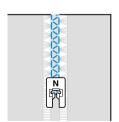
④ 布地の表から織り糸を抜いた右端をぬいます。

⑤ ぬっていた方向と逆の向きに布を回転させます。

⑥ 模様が対称になるように、反対側をぬいます。

■ ドロンワーク（例 2）

① 布地の織り糸を数本抜き取り、約 4mm の間隔をあけて、同様に抜き取ります。

② 模様ぬい押え <N> を取り付けます。

●「押えを交換する」（→ P.33）を参照してください。

③ 模様 選択します。

●「模様を選ぶ」（→ P.39）を参照してください。

④ 抜き取った間の布地の中心をぬいます。

4 付録

ここでは、ミシンのお手入れ方法と困ったときの対処方法などを紹介します。

模様設定一覧

模様の用途や振り幅・ぬい目の長さなどを一覧にしています。

実用模様

名称	模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		返しぬいスイッチ	ウォーキングフット	サイドカッター
				自動	手動	自動	手動			
直線 左	00 J	J	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど	0.0	0.0~7.0	2.5	0.2~5.0	返しぬい	×	○
直線 中	01 J	J/I	ファスナー付け、地ぬい、ギャザー、ピンタックなど	—	—	2.5	0.2~5.0	返しぬい	○ (返しぬいはしないでください)	×
三重ぬい	02 J	J	そで股下ぬい、ぬい目を丈夫にしたいとき、伸びる布地のとき、飾りぬい	0.0	0.0~7.0	2.5	1.5~4.0	止めぬい	×	×
伸縮ぬい	03 J	J	伸びる布地、飾りぬい	1.0	1.0~3.0	2.5	1.0~4.0	止めぬい	×	×
ジグザグ	04 J	J	通常のほつれ止め、アップリケ布のぬい付け	3.5	0.0~7.0	1.4	0.0~4.0	返しぬい	×	×
3点ジグザグ	05 J	J	厚地・伸びる布地のほつれ止め、ゴムテープ付け	5.0	1.5~7.0	1.0	0.2~4.0	止めぬい	×	×
たち目かがり	06 G	G	普通地・薄地のほつれ止め	3.5	2.5~5.0	2.0	1.0~4.0	止めぬい	×	○
たち目かがり	07 G	G	厚地・ほつれやすい布地のほつれ止め	5.0	2.5~5.0	2.5	1.0~4.0	止めぬい	×	○
たち目かがり	08 J	J	伸びる布地のほつれ止め	5.0	0.0~7.0	2.5	0.5~4.0	止めぬい	×	×
まつりぬい	09 R	R	普通地のまつりぬい	0.0	+3~−3	2.0	1.0~3.5	止めぬい	×	×
まつりぬい	10 R	R	伸びる布地のまつりぬい	0.0	+3~−3	2.0	1.0~3.5	止めぬい	×	×
アップリケ	11 J	J	アップリケ布のぬい付け	3.5	2.5~5.0	2.5	1.6~4.0	止めぬい	×	×
スカラップ	12 N	N	サテンスカラップ	5.0	2.5~7.0	0.5	0.1~1.0	止めぬい	×	×

名称	模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		返しぬいスイッチ	ウォーキングフット	サイドカッター
				自動	手動	自動	手動			
つき合わせ	13 J	J	パッチワーク、飾りぬい	4.0	0.0~7.0	1.2	0.2~4.0	止めぬい	×	×
	14 J	J	パッチワーク、飾りぬい、トリコット布などのほつれ止め	5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~4.0	止めぬい	×	×
	15 J	J	パッチワーク、飾りぬい	5.0	0.0~7.0	1.2	0.2~4.0	止めぬい	×	×
スモッキング	16 J	J	スモッキング、飾りぬい	5.0	0.0~7.0	2.5	1.0~4.0	止めぬい	×	×
	17 J	J	スモッキング、飾りぬい	5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~4.0	止めぬい	×	×
飾りぬい	18 J	J	飾りぬい	4.0	0.0~7.0	3.0	2.0~4.0	止めぬい	×	×
	19 J	J	飾りぬい	4.0	0.0~7.0	2.5	1.0~4.0	止めぬい	×	×
	20 N	N	飾りぬい、ゴムひも付け	5.0	1.5~7.0	1.0	0.2~4.0	止めぬい	×	×
	21 N	N	レース付け、ふち飾り、ヘアルームなど	3.5	1.5~7.0	2.5	1.6~4.0	止めぬい	×	×
	22 N	N	ふち飾り、ヘアルームなど	6.0	1.5~7.0	3.0	1.5~4.0	止めぬい	×	×
	23 N	N	薄地・普通地・平織り布のふち飾り、ヘアルームなど	5.0	1.5~7.0	3.5	1.5~4.0	止めぬい	×	×
	24 N	N	薄地・普通地・平織り布のふち飾り、ヘアルームなど	5.0	1.5~7.0	4.0	1.5~4.0	止めぬい	×	×
	25 N	N	薄地・普通地・平織り布のふち飾り、ヘアルームなど	5.0	1.5~7.0	2.5	1.5~4.0	止めぬい	×	×

名称	模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		返しぬいスイッチ	ウォーキングフット	サイドカッター
				自動	手動	自動	手動			
ボタン穴かがり	26 A	A	薄地・普通地のねむり穴、横穴	5.0	3.0~5.0	0.4	0.2~1.0	自動止めぬい	×	×
	27 A	A	張りのある素材の両止め用	5.0	3.0~5.0	0.4	0.2~1.0	自動止めぬい	×	×
	28 A	A	伸びる布地・編み地用	6.0	3.0~6.0	1.0	0.5~2.0	自動止めぬい	×	×
	29 A	A	伸びる布地用	6.0	3.0~6.0	1.5	1.0~3.0	自動止めぬい	×	×
	30 A	A	厚地・毛足の長い布地のはとめ穴	7.0	3.0~7.0	0.5	0.3~1.0	自動止めぬい	×	×
かんどめ	31 A	A	ポケット口などのあき止まりの補強	2.0	1.0~3.0	0.4	0.3~1.0	自動止めぬい	×	×
アイレット	32 N	N	ベルトの穴かがりなど	7.0	7.0/6.0/5.0	–	–	自動止めぬい	×	×
ピーシング直線	33 J P	J	ピーシング用直線（押え右端から6.5mmのぬいしろ）	5.5	0.0~7.0	1.6	0.2~5.0	止めぬい	○	×
	34 J P	J	ピーシング用直線（押え左端から6.5mmのぬいしろ）	1.5	0.0~7.0	1.6	0.2~5.0	止めぬい	○	×
手ぬい風直線（キルト用）	35 J Q	J	手ぬい風キルト直線	0.0	0.0~7.0	2.5	1.0~4.0	止めぬい	×	×
ジグザグ（キルト用）	36 J Q	J	アップリケキルト、フリーモーションキルト、サテンぬい	3.5	0.0~7.0	1.4	0.0~4.0	止めぬい	○	○
アップリケ（キルト用）	37 J Q	J	アップリケ、バインディング	1.5	0.5~5.0	1.2	1.0~4.0	止めぬい	×	×
	38 J Q	J	アップリケ、バインディング	1.5	0.5~5.0	1.2	1.0~4.0	止めぬい	×	×
キルティング模様（キルト用）	39 J Q	J	キルトの背景ぬい	7.0	1.0~7.0	1.6	1.0~4.0	止めぬい	×	×
クロスステッチ	40 N	N	飾りぬいなど	6.0	0.0~7.0	2.5	0.2~4.0	止めぬい	×	×
	41 N	N	飾りぬいなど	6.0	0.0~7.0	1.4	0.2~4.0	止めぬい	×	×

名称	模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		返しぬいスイッチ	ウォーキングフット	サイドカッター
				自動	手動	自動	手動			
飾りぬい	42 N	N	飾りぬいなど	7.0	0.0~7.0	2.5	0.2~4.0	止めぬい	×	×
	43 N	N	飾りぬいなど	7.0	0.0~7.0	2.0	0.2~4.0	止めぬい	×	×
	44 N	N	飾りぬいなど	7.0	0.0~7.0	2.5	0.2~4.0	止めぬい	×	×
	45 N	N	飾りぬいなど	7.0	0.0~7.0	2.5	0.2~4.0	止めぬい	×	×
サテンぬい	46 N	N	飾りぬいなど	7.0	2.5~7.0	0.4	0.1~1.0	止めぬい	×	×
	47 N	N	飾りぬいなど	7.0	2.5~7.0	0.4	0.1~1.0	止めぬい	×	×
	48 N	N	飾りぬいなど	7.0	2.5~7.0	0.4	0.1~1.0	止めぬい	×	×
	49 N	N	飾りぬいなど	7.0	2.5~7.0	0.4	0.1~1.0	止めぬい	×	×

お手入れ

簡単なミシンのお手入れ方法を説明します。

本体表面の掃除

本体表面の汚れを取るときは、中性洗剤をうすめて布に浸して固くしぼり、ふき取ります。洗剤でふいたあとは、乾いた布でふき取ります。

注意

● 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガ・感電の原因となります。

釜の掃除

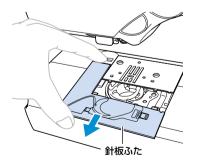
針板の下にある釜を掃除します。
釜には糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良になる場合があります。定期的に掃除してください。

1 電源を切ります。

2 本体右側面の電源ジャックから電源コードを抜きます。

注意

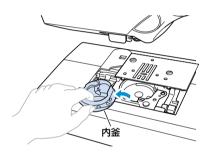
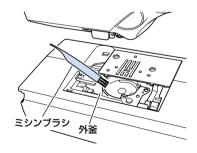
● 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガ・感電の原因となります。

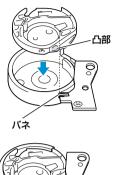
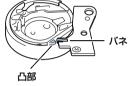
3 針板ふたの向こう側に指を引っかけ、手前にスライドさせます。

▷ 針板ふたが外れます。

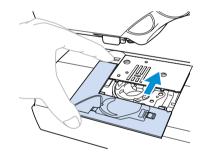
4 プーリーを手前に回し、外釜の切欠部と内釜ツノ部を合わせます。

- プーリーは必ず手前に回してください。逆方向に回すと、故障の原因となります。
- 内釜押えは絶対に取り外さないでください。取り外すと、故障の原因になります。

5 内釜を取り出します。

内釜を奥側に押しながら上に持ち上げます。

6 付属のミシンブラシや掃除機で、外釜周辺の糸くずやほこりを取り除きます。

- 外釜や内釜に油をささないでください。

7 外釜切欠部が **4** と同じ位置にあることを確認し、内釜の凸部とバネが合うように内釜を取り付けます。

8 針板ふたのツメの部分を針板に差し込んでから、奥側にスライドさせます。

注意

- キズが付いた内釜は使用しないでください。万一、使用すると上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。内釜（部品コード：XC3153-051）は最寄りの販売店でお買い求めください。
- 内釜は正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

困ったとき

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に以下の項目を確認してください。
それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。

こんなとき	原因	対処	参照ページ
ミシンが動かない	電源が入っていない。	電源を入れます。	P. 13
	スタート/ストップスイッチを押していない。	スタート/ストップスイッチを押します。	P. 42
	押えレバーが上がっている。	押えレバーを下げます。	P. 41
	フットコントローラーを接続した状態で、スタート/ストップスイッチを押している。	フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。スタート/ストップスイッチを使用する場合は、フットコントローラーを取り外します。	P. 42
針が折れる	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	P. 30
	針の止めネジがゆるんでいる。	ドライバーを使って止めネジをしっかりしめます。	
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	
	針が布地や糸に合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P. 29
	模様に合った押えを使用していない。	模様に合った押えを取り付けます。	P. 33
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P. 47
	布地を無理に引っ張っている。	布地は軽く押さえます。	−
	糸こまや糸こま押えが正しく取り付けられていない。	糸こまと糸こま押えを正しく取り付けます。	P. 20
	針板の穴の周囲にキズがある。	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	−
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	−
	内釜にキズがある。	内釜を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	−
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	P. 14
上糸が切れる	糸こまが正しくセットされていない。 糸こま押えの大きさが合っていない。 針棒糸かけから糸が外れている。	上糸を正しくセットします。	P. 20
	糸に結び目やこぶがある。	その部分を取り除きます。	−

こんなとき	原因	対処	参照ページ
上糸が切れる	針が糸に合っていない。	糸に合った針を使用します。	P. 29
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P. 47
	糸がからまって、釜などに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。釜に詰まっていた場合は、掃除します。	P. 94
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P. 30
	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	
	針板の穴の周囲にキズがある。	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル0120-340-233）にご相談ください。	–
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル0120-340-233）にご相談ください。	–
	内釜にキズがある。	内釜を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル0120-340-233）にご相談ください。	–
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	P. 14
下糸がからまる 下糸が切れる	下糸のセットがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P. 18
	ボビンにキズがあり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換します。	–
	糸がからまっている。	からんだ糸を取り除き、釜を掃除します。	P. 94
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	P. 14
糸調子が合わない	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P. 20
	下糸のセットがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P. 18
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P. 29
	押えホルダーが正しく取り付けられていない。	押えホルダーを正しく取り付けます。	P. 35
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P. 47
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	P. 14
布地にしわがよる	上糸または下糸のセットがまちがっている。	上糸、下糸を正しくセットします。	P. 18 20
	糸こまが正しく取り付けられていない。	糸こまを正しく取り付けます。	P. 20
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P. 29
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P. 30
	薄地の場合に、ぬい目がつれたり、布がうまく送れない。	布地の下にハトロン紙などを敷いてぬいます。	P. 51
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P. 47

こんなとき	原因	対処	参照ページ
ぬい目がとぶ	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P. 20
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P. 29
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P. 30
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	
	針板の下や釜にほこりなどがたまっている。	針板ふたを外して釜を掃除します。	P. 94
ぬっているときの音が高い ガタガタと音がする	送り歯や釜にほこりがたまっている。	釜を掃除します。	
	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P. 20
	内釜にキズがある。	内釜を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル0120-340-233）にご相談ください。	–
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。 本機純正ボビンを使用してください。	P. 14
針穴に糸が通らない	針が上に上がっていない。 カセット挿入ランプが赤点灯している。	針上下スイッチを押し、カセット挿入ランプを緑点灯にします。	P. 24
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	P. 30
模様がきれいにぬえない	模様に合った押えを使用していない。	模様に合った押えを取り付けます。	P. 33
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P. 47
	糸がからまって、釜などに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。釜に詰まっていた場合は、掃除します。	P. 94
布地を送らない	模様に合った押えを使用していない。	模様に合った押えを取り付けます。	P. 33
	糸がからまって、釜などに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。釜に詰まっていた場合は、掃除します。	P. 94
	送り歯が下がっている。	ドロップレバーを左に動かします。	P. 78
	ぬい目が細かすぎる。	ぬい目の長さを長くします。	P. 49
手もとランプが点灯しない	ランプが故障した。	お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル0120-340-233）にご相談ください。	–

エラーメッセージ

ミシンが正しく設置される前にスタート／ストップスイッチを押したり、正しい操作を行っていないときには、模様表示に以下のエラーメッセージが表示されます。

エラーメッセージが表示されている間に、▲ (模様選択キー)を押す、または正しい操作を行うとメッセージが消えます。

エラーメッセージ	原因	対処方法
E1	押えが上がっているときに、スタート／ストップスイッチ、返しぬいスイッチ、または糸切りスイッチを押した。	押えを下げてから操作してください。
E2	ボタン穴かがりレバーが下がっているときに、ボタン穴かがり、またはかんどめ以外の模様を選択してスタート／ストップスイッチを押した。	ボタン穴かがりレバーを上げてから操作してください。
E3	ボタン穴かがりレバーが上がっているときに、ボタン穴かがり、またはかんどめの模様を選択してスタート／ストップスイッチを押した。	ボタン穴かがりレバーを下げてから操作してください。
E4	下糸巻き軸を右に移動させているときに、返しぬいスイッチ、針上下スイッチ、または糸切りスイッチを押した。	下糸巻軸を左に移動させてから操作してください。
E5	フットコントローラーが差し込まれているときに、スタート／ストップスイッチを押した。	フットコントローラーをはずして、スタート／ストップスイッチで操作してください。もしくはフットコントローラーをつけたまま足で操作してください。
E6	糸がからまったせいでモーターが止まった。	からまった糸をとり除いてから操作してください。
E7	糸カセットが本体にセットされていないときに、スタート／ストップスイッチ、返しぬいスイッチ、または糸切りスイッチを押した。	糸カセットを本体にセットしてから操作してください。
E8	糸カセットが本体にセットされておらず、針が下がっているときに、縫製をスタートしようとした。	針上下スイッチを押して、針を上に上げてから糸カセットを本体にセットして、スタート／ストップスイッチを押してください。

電子音

キーを操作しているときや、まちがった操作をしたときなどに、電子音が鳴ります。

■ 正しい操作をしたとき

「ピッ」と鳴ります。

■ まちがった操作をしたとき

「ピッピッ」または「ピッピッピッピッ」と鳴ります。

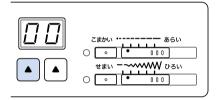
■ 糸がからむなど、ミシンがロックしたとき

「ピッピッピッ・・・」と４秒間鳴り続け、ミシンは自動的に止まります。
必ず原因を確認して改善してから、再開してください。

針停止位置の変更

通常は、針が布地に刺さった状態でミシンが止まるように設定されています。針が上がった状態でミシンが止まるように設定を変更することができます。

1 電源を切ります。

2 左の模様選択キー（▲）を押したまま、電源を入れます。

▷ 針の停止位置が上に変更されます。

お知らせ

- もう一度同じ操作をすると、針の停止位置は下に戻ります。

アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「ミシン 119 番」（フリーダイヤル 0120-340-233）、お客様相談室にお問い合わせください。

■ 保証書について

ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。（保証書は外箱に付いています。）また無料修理保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。それ以後の修理については、お買い上げの販売店、または下記の「ミシン 119 番」、お客様相談室にお問い合わせください。

■ ミシン 119 番

ミシンの使い方やトラブルに対するご相談、修理の受け付けは「ミシン119番」（フリーダイヤル0120-340-233）までお問い合わせください。

■ お客様相談室

お客様相談室	郵便番号	住所	電話番号
本社	467-8577	愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1	(052) 824-3125
北海道	060-0063	北海道札幌市中央区南三条西3-2-2	(011) 261-6631
東北	980-0811	宮城県仙台市青葉区一番町2-3-10	(022) 227-8877
東京	104-0031	東京都中央区京橋3-3-8	(03) 3281-4204
中部	467-8577	愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1	(052) 824-3193
関西	550-0012	大阪府大阪市西区立売堀4-4-2	(06) 6531-4670
中四国	730-0021	広島県広島市中区胡町4-28	(082) 240-3762
九州	812-0011	福岡県福岡市博多区博多駅前2-3-12	(092) 431-6566

お願い

- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「ミシン 119 番」、お客様相談室にご連絡ください。
- 最寄りのお客様相談室におかけになった電話は、本社お客様相談室へ転送されます。転送した電話料金は、弊社が負担いたします。
- FAX でのお問い合わせは、本社お客様相談室（052）824-3031 でお受けいたします。
- 上記の電話番号および住所は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

さくいん

P

Q

ア

イ

ウ

オ

カ

キ

ク

コ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

チ

ツ

テ

ト

ヌ

ノ

ハ

ヒ

フ

ホ

マ

ミ

メ

モ

ラ

リ

アフターサービス

●ご購入の際、販売店でお渡しする保証書は大切に保管してください。
●無料修理保証期間は、お買い上げ日より1年間です。詳しくは保証書をご覧ください。
それ以後の修理については、お買い上げの販売店、または下記の「ミシン119番」、お客様相談室にご相談ください。
●当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
●アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または下記の「ミシン119番」、お客様相談室へお問い合わせください。

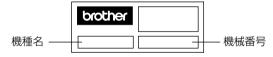
ミシン119番　フリーダイヤル0120-340-233

●ブラザーミシンの使い方やアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または「ミシン119番」までお問い合わせください。
●「ミシン119番」ではミシンの使い方やトラブルに対するご相談、修理の受け付けを行っております。

お客様相談室

ブラザー販売株式会社 お客様相談室

本　社	〒467-8577	愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1	TEL: (052)824-3125
北海道	〒060-0063	北海道札幌市中央区南三条西3-2-2	TEL: (011)261-6631
東　北	〒980-0811	宮城県仙台市青葉区一番町2-3-10	TEL: (022)227-8877
東　京	〒104-0031	東京都中央区京橋3-3-8	TEL: (03)3281-4204
中　部	〒467-8577	愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1	TEL: (052)824-3193
関　西	〒550-0012	大阪府大阪市西区立売堀4-4-2	TEL: (06)6531-4670
中四国	〒730-0021	広島県広島市中区胡町4-28	TEL: (082)240-3762
九　州	〒812-0011	福岡県福岡市博多区博多駅前2-3-12	TEL: (092)431-6566

● 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
ミシン背面の定格ハリマーク（銀色シール）の下記部分をご確認ください。

● ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「ミシン119番」、お客様相談室にご連絡ください。
● 最寄りのお客様相談室におかけになった電話は、本社お客様相談室へ転送されます。転送した電話料金は、弊社が負担いたします。
● FAXでのお問い合わせは、本社お客様相談室 (052) 824-3031 でお受けいたします。
● 上記の電話番号および住所は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

ホームページ

●ブラザー工業のホームページでは、家庭用ミシンに関する様々な情報を掲載しております。
（URL）http://www.brother.co.jp

ブラザー工業株式会社

取扱店

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1　〒467-8561

114-S05
XC8445-021
Printed in China